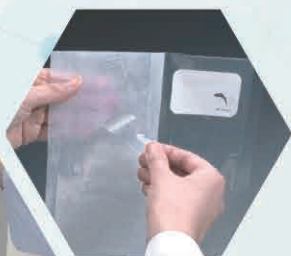
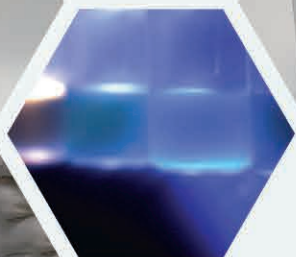


食品衛生検査用 機器・試薬・キット

CATALOG



ELVEX

contents Devices, reagents, and test kits for food hygiene inspection

検査フロー 02

環境検査

拭き取り検査キット 04

- SWAB TEST 04
- Swabstar 04

大腸菌群・E.coli 同時検査用酵素基質培地

- ST-SSP 06

環境微生物検査用

- スタンプ培地 07

製品検査

滅菌バッグ

- PYXON シリーズ 08
- WHIRL-PAK 10

嫌気性菌検査用パウチ

- AB パウチ 12

培地入りフィルタバッグ

- バッグ de プロス 13

滅菌希釈液

- MT・DS シリーズ 14
- MV シリーズ 16

大腸菌群・E.coli 同時検査用酵素基質培地

- XM シリーズ 18
- アガートリコロール 20

小型装置

自動秤量分注装置

- DT cube 22

ホモジナイザ

- SH- II M 24

簡易分注器

- AP-001 25

コロニーカウンティングシステム

- スマートアイザック 26

その他

- 新採便管 28
- ウイルス輸送培地 29
- 検体採取綿棒 29

• Price List (価格表) 30

検体のサンプリングから
発色・発光酵素基質を用いた微生物検査まで
ELMEXは食品衛生検査においてさまざまな工程で必要とされる
消耗品・検査キット・小型装置を
独創技術を駆使して幅広く開発し、ラインナップしています。

さらに、検査データを一元管理し
収集・分析・解析を効率化するデータ管理システムを開発。
情報処理技術を活用した新たなサービス事業へも展開しています。

着想から開発、そして製品化へ、
もっと速く、もっと簡単に
微生物検査の革新に向け、私たちの挑戦は続きます。



検査フロー

従来の食品微生物検査では、秤量・希釈・培地調製など多くの手作業が必要でした。本検査フローでは、自動化機器と簡易培地を活用することで作業工程を大幅に簡略化し、検査の簡易化・迅速化・省力化を実現します。

Flowchart

製品検査

検体の採取・輸送・保存

Whirl-Pak Bag P10



サンプリング用バッグ
液体保存も可能

試料原液の作成

PYXON P08
滅菌フィルタバッグ



ホモジナイズ用バッグ
マイクロピペット対応
各種あり

滅菌希釈液 P16
MVシリーズ



90mL、225mL、
装置用 1,000mL、5,000mL

自動秤量分注装置 P22
DT cube



検体重量に対して自動で10倍希釈

ホモジナイザ P24
SH-II M



破砕力抜群、シンプル操作
短時間でホモジナイズ

ホモジナイザ P24
SH-III (発売予定)

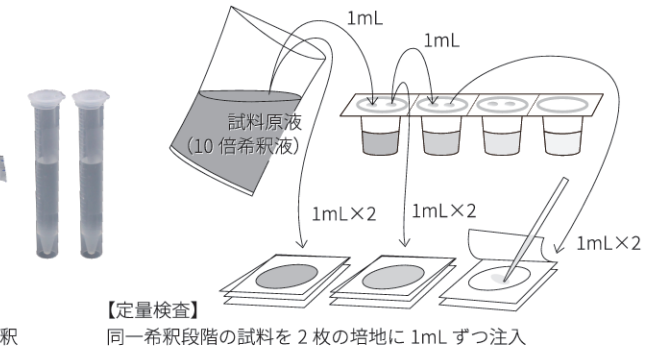


段階希釈

滅菌希釈液 P14
MT・DS



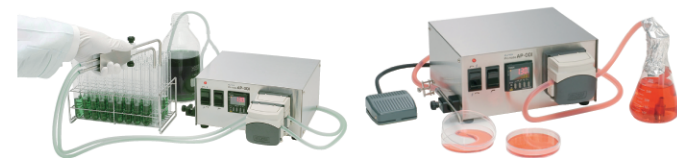
9mL分注済み
試料1mLを入れて10倍希釈



【定量検査】
同一希釈段階の試料を2枚の培地に1mLずつ注入

希釈液・培地の分注

簡易分注器 AP-001 P25



試験管にもシャーレにも分注可能

培地・培養・判定

大腸菌群・E.coli 同時検査用 P18
液体酵素基質培地 XMシリーズ



【定性検査】
36±1℃ 24時間培養後、色と蛍光で判定

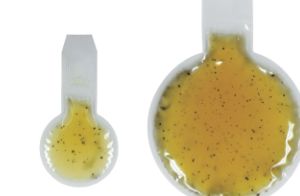
ペーパーディスク P18
インドール検出用
β-グルグルニダーゼ検出用



補助テスト

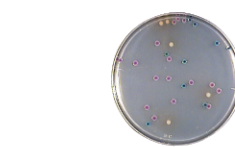
パウチ法

嫌気性菌検査用 P12
ABパウチ



検体と培地を入れ
シーラー機で密閉し培養

大腸菌群・E.coli 同時検査用 P20
アガートリコロロール



24時間培養後、コロニーがきれいに発色

微生物検査用フィルム培地
Easy Plate



全8種類

コロニーカウント

コロニーカウンティングシステム P26
Smart iSac



食品安全マネジメントシステムをサポート

環境検査

表面付着菌検査

スタンプ培地 P07



スタンプして培養するだけ

拭き取り検査

拭き取り検査キット P04
SWAB TESTシリーズ



綿棒、希釈液、ピペット機能が1本に入って滅菌済み
拭き取ってボトルに戻し試料原液作成後、培地へ滴下

拭き取り検査キット P04
Swabstar



大腸菌群・E.coli 同時検査用 P06
液体酵素基質培地 ST-SSP



拭き取り検査キットのボトルに入れて培養

拭き取り検査キット

Pro-media SWAB TEST Swabstar



拭き取り検査キットは
HACCP International 認証を取得しています
(アジア・オーストラリア地域)



SWAB TEST 希釈液は、りん酸緩衝生理食塩水、緩衝ペプトン水、0.1%ペプトン加生理食塩水の3種類をご用意しています。

綿棒・試験管・希釈液・ピペット機能がすべて入って滅菌済み。持ち運びやすく前準備なしで手間なく拭き取り検査ができるキットです。延長ツールを接続すれば届きにくい箇所の拭き取りも可能。拭き取り後、専用の酵素基質培地を使用すれば大腸菌群、E.coli の定性検査が簡単にできます。



ホームページ ST



ホームページ SS



使い方



Swabstar 拭き取り部は扁平で薄型な形状で細部の拭き取りに対応。アレルゲン検査にも使用できます。希釈液はりん酸緩衝生理食塩水のみです。

特徴

SWAB TEST



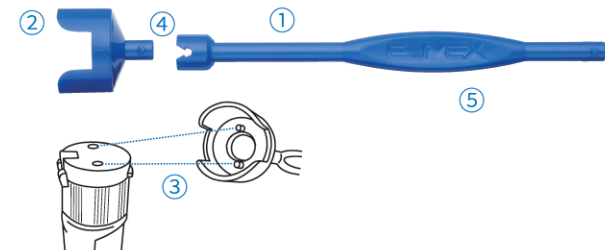
①キャップと一体型の綿棒 長さ約 95mm 延長ツール接続可能 ②拭き取り部は綿球状レーヨン製 ③拭き取り部は扁平薄型ポリエステル製 ④希釈液 10mL が分注済み ⑤キャップ上部の蓋をあけ滴下可能 1滴は約 50μL ⑥ボトルには1mLの目盛付き ⑦ラベルに検体情報記入スペースあり

Swabstar



オプション

延長ツール 届きにくい場所の拭き取りにキャップに接続してご使用ください



①スティックは2〜3本接続できます ②キャップ ③キャップ内の2つの突起部分がキャップ上部の穴とかみ合うのではありません ④接続は脱落防止のため固くなっています ⑤延長ツールは繰り返しご使用いただけます

希釈液



りん酸緩衝生理食塩水
Phosphate Buffered Saline

増菌率が低く、pH調整機能がある。生理食塩水の等張性により菌の死滅を防ぐ。食品衛生検査で最も多く使用されている希釈液。



緩衝ペプトン水
Buffered Peptone Water

1%ペプトン水のため、増菌率が高まり高精度の検査が可能。集菌後冷蔵保存、または所望の温度による増菌培養が必要。米国FDAおよびISO6887-1に準拠した希釈液。用途は貧栄養菌・損傷菌の回復、サルモネラの前培養、黄色ブドウ球菌検査に使用。

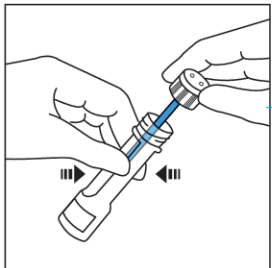


0.1%ペプトン加生理食塩水
Maximum Recovery Diluent

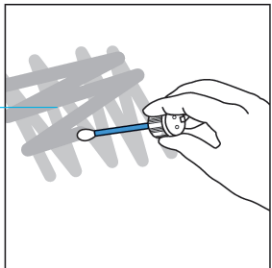
ペプトンの保護効果と生理食塩水の等張性により、菌の死滅・不活化を防ぐ。また、ペプトン濃度が低いため1、2時間では増菌しない。ISO6887-1に準拠した希釈液。用途は貧栄養菌・損傷菌の回復など。

使い方

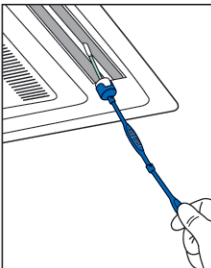
拭き取り



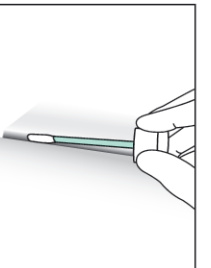
ラベルに検体情報などを記入し、キャップを開け、容器の外側から指で綿球を押し余剰の液を絞り落とします。



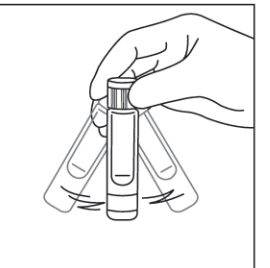
検査箇所の一定の面積(約100cm²)を圧力300g前後で拭き取ります。(拭き取り後はアルコール除菌などを推奨します)



高所や届きにくい箇所は延長ツールを接続し拭き取ります。

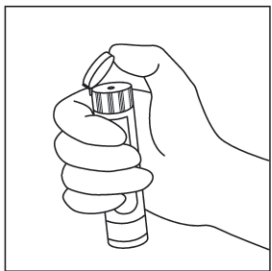


機械の細部や溝などはSwabstarが拭き取りやすい。

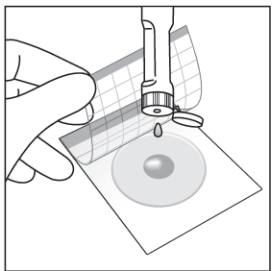


拭き取った綿棒を容器に戻しキャップを閉じて左右方向に振り内容物を均一にし、試料原液を作成します。

定量検査



試料原液を作成後、キャップ上部の蓋を開ける。



蓋を開け内容液1mLを直接培地へ滴下。綿棒で培地表面に直接塗抹することもできます。

拭き取り判定基準

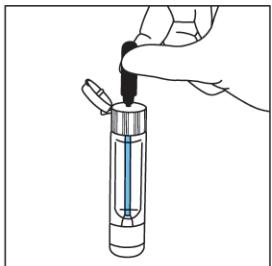
「改訂 自主衛生検査マニュアルの活用」
(一般財団法人東京顕微鏡院発行)より抜粋

コロニー発生数 100 cm ² (10×10 cm)	0~30	30~100	100以上
汚染程度	軽度	中程度	強度
措置・対策	—	—	再洗浄・殺菌

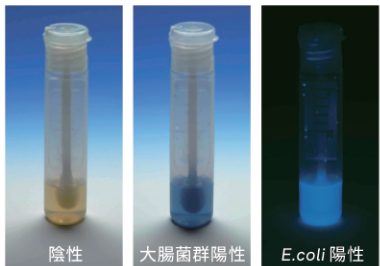
培地に1mL接種した場合は、発生した菌数を10倍し100cm²の菌数を算出してください。

定性検査

大腸菌群・E.coli



試料原液を菌数検査などに使用した後、容器に5mLを残して余剰分を廃棄します。キャップ上部の蓋を開けノズル部分から培地ST-SSPを注入し容器ごと培養します。



36±1℃ 24時間培養後、淡黄色の培地が青〜緑に変色した場合、大腸菌群陽性です。変色したものに紫外線(波長365nm)を照射して蛍光を発すればE.coli陽性と判定します。

使用例



ベルトとローラーの隙間、ドラムカッターの奥まった部分、カット用ナイフなどの拭き取り検査に使用。

ラインナップ

製品	コードNo.	入数	概要	材質	滅菌	保存条件
 SWAB TEST PBS	ST-25PBS	400本 (10本入×40箱)	りん酸緩衝生理食塩水10mL入り	拭き取り部レーヨン製 キャップ、綿軸：ポリプロピレン ボトル：ポリエチレン	γ線照射	室温 2～25℃
	ST25-100	100本 (10本入×10箱)				
 SWAB TEST BPW	ST-25BPW	400本 (10本入×40箱)	緩衝ペプトン水10mL入り			
	ST25BPW-100	100本 (10本入×10箱)				
 SWAB TEST MRD	ST-25MRD	400本 (10本入×40箱)	0.1%ペプトン加生理食塩水10mL入り			
	ST25MRD-100	100本 (10本入×10箱)				
 Swabstar	SS-01-400	400本 (10本入×40箱)	りん酸緩衝生理食塩水10mL入り	拭き取り部：ポリエステル製 キャップ、綿軸：ポリプロピレン ボトル：ポリエチレン		
	SS-01-100	100本 (10本入×10箱)				
	SS-01-050	50本 (10本入×5箱)				
 延長ツール	SE-4	4セット (キャップ4個 スティック4本)	スティック1本時 L: 155mm スティック2本時 L: 280mm スティック3本時 L: 405mm	ABS樹脂 (オートクレーブ滅菌不可)	—	—
 拭き取り検査キット専用 酵素基質培地	ST-SSP	300本 (10本入×10袋)	大腸菌群・E.coli 同時検査用	キャップ：ポリプロピレン ボトル：LDPE	γ線照射	遮光室温
 LEDブラックライト	BL-365N	1個	E.coli 検査用 波長: 365nm		—	—

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

大腸菌群・E.coli 同時検査用
酵素基質培地 ラウリル硫酸X-GAL・MUG培地

Pro-media ST-SSP



拭き取り検査キットSWAB TEST、Swabstar専用のX-GAL・MUG培地です。大腸菌群・E.coliを同時に高感度で検出するための定性検査用培地で、拭き取った後キットの容器で培養できます。E.coli検査の際は紫外線ライトをご用意ください。滅菌済み。



ホームページ



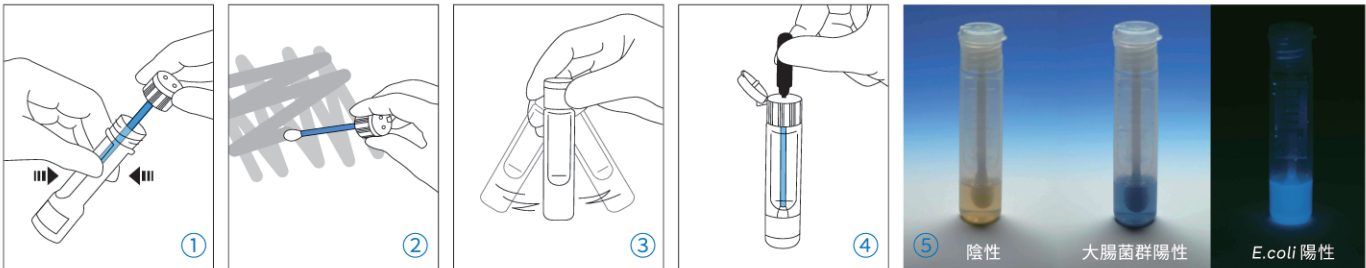
使い方

●特徴

- ・拭き取り検査キットの容器で検査可能
- ・大腸菌群・E.coli 同時検査
- ・5 倍の感度 (1mL×5 試験管に相当)
- ・ピペット不要
- ・BGLB培地やEC培地と比較して感度が高い
- ・確定試験不要



●使い方



①SWAB TEST または Swabstar のラベルに検体情報などを記入し、キャップを開け、容器の外側から指で綿球を押し余剰の液を絞り落とします。②検査箇所の一定の面積 (約 100 cm²) を圧力 300g 前後で拭き取ります。③拭き取った綿棒を容器に戻しキャップを閉じて左右方向に振り内容液を均一にし、試料原液を作成します。④試料原液を菌数検査などに使用した後、容器に 5mL を残して余剰分を廃棄します。キャップ上部の蓋を開けノズル部分から培地 ST-SSP

を注入。ST-SSP ボトルを3回以上圧迫することで容器に培地が入ります。注入後、容器ごと 36±1℃ 24 時間培養し、判定します。⑤培養後、淡黄色の培地が青～緑に変色した場合、大腸菌群陽性です。少しでも青または緑に変色すれば陽性としします。変色したものに紫外線 (波長 365nm) を照射して蛍光を発すれば E.coli 陽性です。蛍光は暗室でなくても室内光で確認できます。

●反応原理

大腸菌群の検出

大腸菌群が持つ乳糖分解酵素 β-ガラクトシダーゼにより X-GAL (5-Bromo-4-chloro-3-indolyl-β-D-galactopyranoside) は、加水分解と酸化反応を経てブロモクロロインディゴとなり、淡黄色が青色～緑色に変化します。

E.coli の検出

E.coli が持つ特異酵素 β-グルクロニダーゼによりMUG (4-Methylumbelliferyl-β-D-glucuronide) が加水分解され、蛍光物質 (4-Methylumbelliferon) を生成し、365nm の紫外線によって450nm の蛍光を発します。

●ラインナップ

製品	コードNo.	入数	概要	材質	滅菌	保存条件
 拭き取り検査キット専用 酵素基質培地	ST-SSP	300本 (10本入×10袋)	大腸菌群・E.coli 同時検査用 X-GAL・MUG培地	キャップ: ポリプロピレン ボトル: LDPE	γ線照射	遮光室温
 LEDブラックライト	BL-365N	1個	E.coli 検査用 波長: 365nm	—	—	—

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

環境の微生物検査用

Pro-media スタンプ培地

食品取扱現場の微生物汚染状況の検査に使用するスタンプ培地。培地表面を直接検査箇所に押し付けて検査します。積み重ねた複数の容器をつかみ流れるような作業ができ効率的。4種類の培地は色別で識別できます。常温 (15 ~ 25℃) 遮光で6ヶ月保存可能です。



ホームページ



使い方

●特徴

連続スタンプが可能

複数個重ねたスタンプ培地を片方の手で掴み、もう一方の手と連携して蓋の開閉ができるため効率的に連続スタンプが行えます。

個別容器

容器は個別成型されているため、連続成型容器のように分離するときに生じるバリや異物が発生しません。

容器のつば部に記入できます

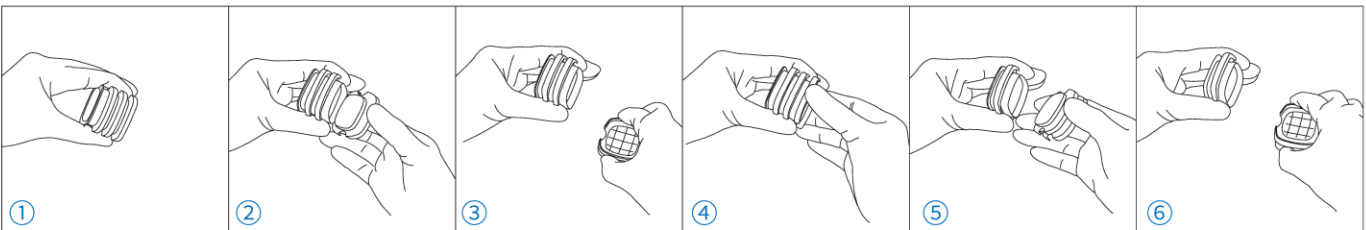
梨地成型のつば部に検体情報を油性ペンで記入できます。

培地の識別が簡単

色別の培地識別表示で、培地選択ミスを防ぎます。

A 重ねたまま掴みながら蓋が開けやすいように次段の蓋より深く凹状に切り欠いています。B 次段の蓋が掴みやすくなっています。C 検体情報を書けるよう、つば部を広くしてあります。梨地成型 D 培地種類で色分けしてあります。

●使い方



①検査箇所に必要な種類の培地を積み重ね、蓋を上、培地側を下にし容器側面の窪みに指をあて片手で掴みます。②窪みにあてた指で最下段の蓋を抑え、もう一方の手で最下段のつば部を掴み 蓋を開けます。③蓋を開けた培地の表

面を検査箇所に押し付けてスタンプします。④スタンプ後の容器を元の蓋に戻します。⑤同様に次段の培地の蓋を開けます。⑥次の検査箇所に培地表面を押し付けてスタンプします。(スタンプ後の検査箇所はアルコール除菌を推奨)

●汚染度判定基準

コロニー数/10cm ²	汚染度	判定基準
0~30	軽汚染度	— ~ +
30~100	中程度汚染	+ +
100以上	強度汚染	+ + +

参考文献
改定自主衛生管理マニュアルから
抜粋 (1998年5月発行)
編著 社団法人日本べんとう工業協会
発行 財団法人東京顕微鏡院

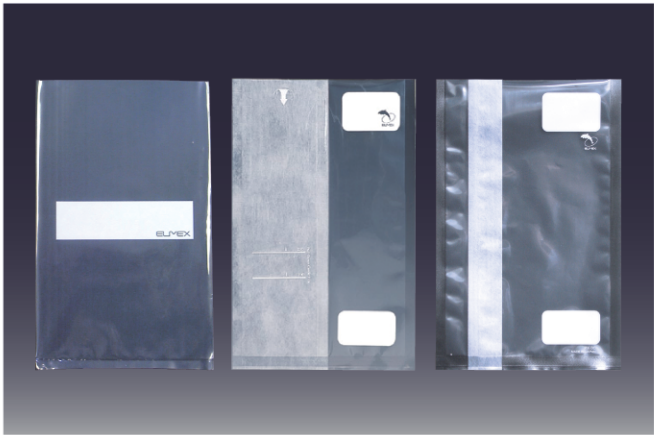
●ラインナップ

製品	コードNo.	入数	培地面積	概要	材質	保存条件
 スタンプ培地AC 識別色: 赤	SAAC-48	48個 (6個入チャック袋×8)	10cm ²	一般生菌数検査用 標準寒天培地 [培養] 36℃ 1~2日 出現したすべてのコロニーをカウント	容器: PS チャック袋: PET、PE	常温 (15℃~25℃) 遮光
 スタンプ培地EC 識別色: 青	SAEC-48	48個 (6個入チャック袋×8)	10cm ²	大腸菌群・E.coli 検査用 アガートリコロール [培養] 36℃ 1日 赤~紫 (大腸菌群) 青~青紫 (E.coli) に発色した コロニーをカウント		
 スタンプ培地SA 識別色: 黄	SASA-48	48個 (6個入チャック袋×8)	10cm ²	黄色ブドウ球菌検査用 ETGM寒天培地 [培養] 36℃ 1~2日 黒色で透明環と混濁環 (ハロ) を形成している コロニーをカウント		
 スタンプ培地PD 識別色: 緑	SAPD-48	48個 (6個入チャック袋×8)	10cm ²	真菌検査用 CP加PDA培地 [培養] 20~25℃ 2~5日 出現したすべてのコロニーをカウント		

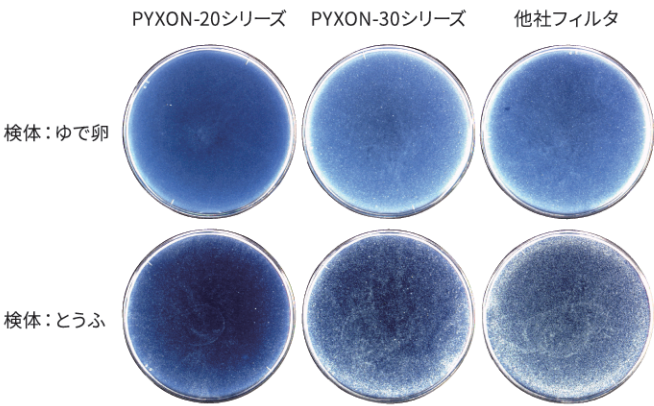
仕様および価格は予告なく変更する場合があります

滅菌ホモジナイズバッグ
滅菌フィルタバッグ

PYXON シリーズ



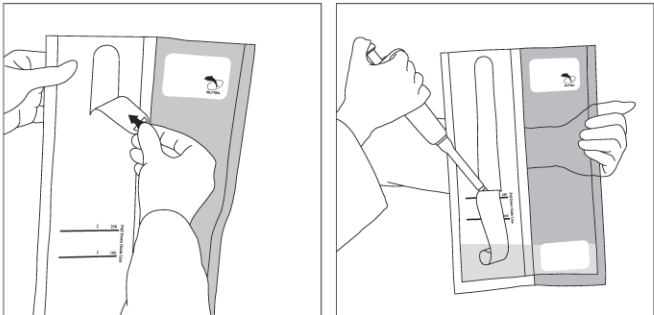
フィルター性能



検体を30秒間ホモジナイズした後のフィルタのろ過度比較。白く濁っているのが食物残渣です。

使い方

PYXON-20



検体と希釈液を入れホモジナイズした後に、マイクロピペット差し込み口を開けます。①矢印マークのプルタブをつまみ、Pull Down Guide Line まで引き下ろします。②引き下ろした差し込み口からピペットを差し込んで検体を吸引します。

- Pull Down Guide Line は、プルタブを引き下ろす下限の目安です。上段線は250mL、下段線は100mLです。
- 引き下ろしすぎると、検液の水位に達する場合がありますのでご注意ください。
- フィルムは方向性を持っていません。まっすぐ下に引き下ろしてください。

検体をホモジナイズする際に使用する滅菌バッグ。高密度フィルタを使用した PYXON-20 シリーズと、エコノミータイプの PYXON-30 シリーズ、フィルタなしタイプもございます。



ホームページ



使い方

特徴

PYXON-20 シリーズ

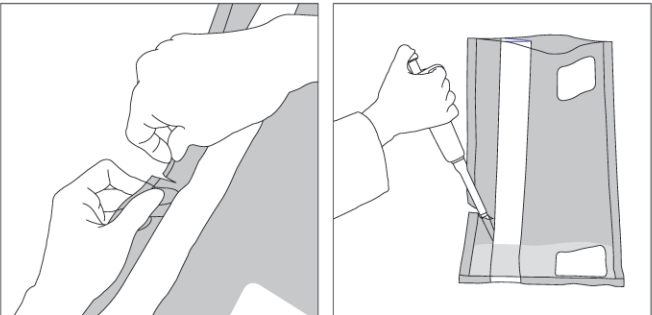
きめ細かいフィルタにより検体の残渣がきれいに取れるので、ゆでたまごや豆腐などの残渣の出やすい検体のホモジナイズに威力を発揮します。コロニーカウント時にはより正確な菌数測定ができます。フィルタ上部を指で挟み左右にスライドするとピペット挿入部が大きく開き、長いメスピペットでも吸引作業が簡単。またバッグのプルダウン機能により、バッグを傾けることなくマイクロピペット本体を汚さず吸引できます。

全品共通

検体名や日付が鉛筆やボールペンで書き込み可能。フィルタなしやマジックカット付など全6種類。用途に合わせてお選びください。20 枚ずつチャック袋入り。



PYXON-30C



検体と希釈液を入れホモジナイズした後に、ピペット差し込み口を開けます。①袋の片側を手で切ります。マジックカット加工が施されているので、どこからでも手で切れます。②切り口からピペットを差し込んで検体を吸引します。マイクロピペットでも本体を汚さず吸引できます。

ラインナップ

製品	コードNo.	入数	サイズ	容量	概要	材質	滅菌
 滅菌フィルタバッグ PYXON-20	PX0020	500枚 (20枚入チャック袋×25)	190×300mm	400mL	マイクロピペット用 プルダウンタイプ プルダウンを用いてフィルムの一部に窓を開けマイクロピペットを差し込み、検体を吸引します。 ハイレードフィルタ使用 捕集効率 90%粒径 60μm 日本製	袋：LLDPE、PET フィルタ：不織布	γ線照射
 滅菌フィルタバッグ PYXON-20P	PX0020P	500枚 (20枚入チャック袋×25)	190×300mm	400mL	メスピペット用プレーンタイプ プレーンなフィルタバッグ ハイレードフィルタ使用 捕集効率 90%粒径 60μm 日本製		
 滅菌フィルタバッグ PYXON-20M	PX0020M	1,000枚 (20枚入チャック袋×50)	114×190mm	80mL	少量検体用プレーンタイプ 小量 (5g など) の検体処理にご使用ください。 ハイレードフィルタ使用 捕集効率 90%粒径 60μm 日本製		
 滅菌フィルタバッグ PYXON-30	PX0030	500枚 (20枚入チャック袋×25)	190×300mm	400mL	メスピペット用 プレーン・エコノミータイプ フィルタが袋の内部にあるのでピペット操作時の吸引状態を目視確認できます。下から約 12cm の位置に袋を切るためのノッチが付いているので、切ったところからピペットを差し込み検体を吸引することもできます。 フィルタ捕集効率 90%粒径 90μm 日本製		
 滅菌フィルタバッグ PYXON-30C	PX0030C	500枚 (20枚入チャック袋×25)	190×300mm	400mL	マイクロピペット・メスピペット共用 プレーン・エコノミータイプ フィルタが袋の内部にあります。マジックカット加工があり、手で袋を切ることができます。切ったところからピペットを差し込み検体を吸引できます。 フィルタ捕集効率 90%粒径 90μm 中国製		
 滅菌ホモジナイズバッグ PYXON-10	PX0010	1,000枚 (20枚入チャック袋×50)	180×300mm	400mL	フィルタなし 日本製	LLDPE	

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

滅菌サンプリングバッグ



ホームページ

検体採取・収去・保存に最適なサンプリングバッグ。ワイヤーで密封します。豊富なサイズをご用意していますので用途に合わせてご使用ください。EOG 滅菌済み。

特徴

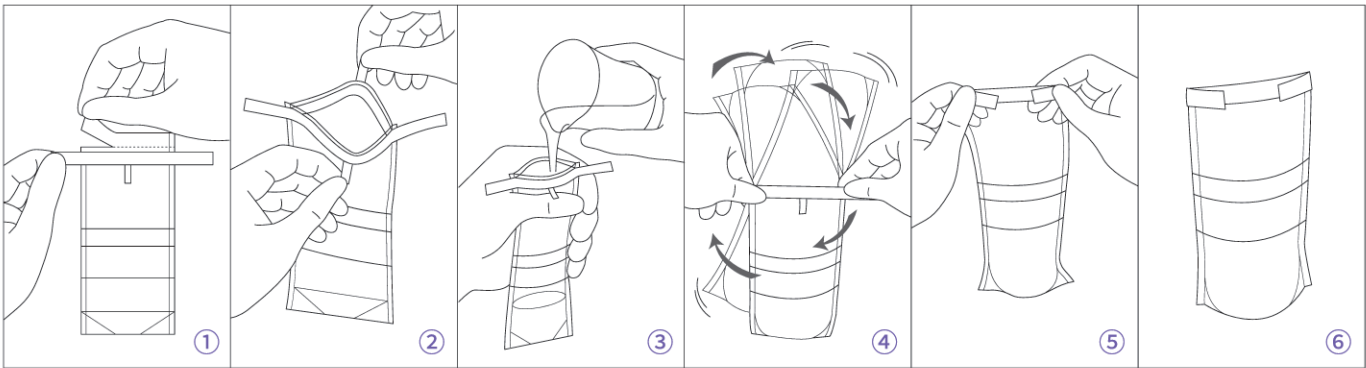
さまざまな検体のサンプリングに使用できます。

- ・食品全般、牛乳、清涼飲料水
- ・水、下水、汚物、食糧、試料、肥料
- ・薬品、錠剤、調剤テスト、環境見本、生検見本、病理見本

開口するためのプルタブ付き。手が袋に触れることなくバッグの滅菌状態を維持し、サンプルが汚染されないように密封できる設計となっています。自立するタイプや、鉛筆やボールペンで検体情報を書き込みできるタイプもございます。

R-NASE、D-NASE、パイロジェン、BPH フリー。
USDA、FDA、HACCP、EPA の規制および業界要件にも準拠しています。
Whirl-Pak Bags は米国 Filtration Group 社の商品です。(特許番号：2,973,131)

使い方



①検体情報をバッグに書き込み、ミシン目に沿って開封します。②開口部に触れないようにプルタブを用いて開口します。③検体をバッグに入れます。④ワイヤーの端を持って3回転させます。またはワイヤー部分をしっかり3回折り曲げます。⑤ワイヤーの両端を内側に折り曲げ密封します。またはワイヤーの両端どうしをねじって結束させ密封します。⑥スタンドアップタイプは自立するので、ボトルのように使用できます。

使用上の注意

- ・180°F (82°C) を超える温度でバッグを使用しないでください。
- ・Whirl-Pak バッグは、-320°F (-196°C) までの液体窒素温度を含むあらゆる温度に凍結できますが、凍結後は慎重な取り扱いが必要です。
- ・容量は、袋を閉じタブを3回折り曲げた状態で測定されます(容量および寸法は概算 ±5% です)。
- ・容量 許容値はワイヤーを3回折り曲げた時の最大値でエルメックスが推奨する容量です。
- ・BO1195WA はホモジナイズバッグとして使用する場合は 400mL タイプと同量でご使用ください。
- ・保存期間は滅菌証明書に記載されている滅菌日から5年です。
- ・滅菌証明書は、<https://www.whirl-pak.com/sterility-document/> よりダウンロード可能です。
- ・Whirl-Pak バッグは、90°F (32°C) を超えない室温で保管してください。



ラインナップ

製品	コードNo.	入数	サイズ	容量	厚み	概要	材質	滅菌
	BO1020WA	500枚	150×230mm	710mL	76μm	検体採取・収去・保存用 書き込み用印刷なし	混合ポリエチレン	EOG滅菌
	BO1062WA	500枚	75×185mm	118mL	57μm	検体採取・収去・保存用 書き込み用印刷あり		
	BO1065WA	500枚	115×230mm	532mL 許容値：400mL	64μm	検体採取・収去・保存用 書き込み用印刷あり		
	BO1195WA	500枚	190×300mm	1627mL	102μm	検体採取・収去・保存用 ホモジナイズ兼用 書き込み用印刷あり		
	BO1245WA	100枚	115×230mm	532mL 許容値：400mL	64μm	家畜・家禽拭き取り検査用 スポンジ入り 書き込み用印刷あり		
	BO1364WA	500枚	75×185mm	118mL	64μm	検体採取・収去・保存用 マチ付き自立タイプ 書き込み用印刷あり		
	BO1365WA	500枚	115×230mm	532mL 許容値：500mL	76μm	検体採取・収去・保存用 マチ付き自立タイプ 書き込み用印刷あり		

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

嫌気性菌検査用パウチ

ABパウチ



ホームページ

食品衛生法では、特定加熱食肉製品、加熱食肉製品（包装後加熱殺菌）についてクロストリジウム属菌の成分規格が定められ、定量試験はパウチ法で行われています。γ線滅菌済み。

●特徴

嫌気性菌検査用のパウチ袋です。最大8検体を同時に検査できる容量 200mL の ABP-180 と、1検体用の容量 25mL の ABP-90 の2種類をご用意しています。検体と培地を入れシーラー機で密封し培養します。検査に使用する培地と、シーラー機を別途ご用意ください。

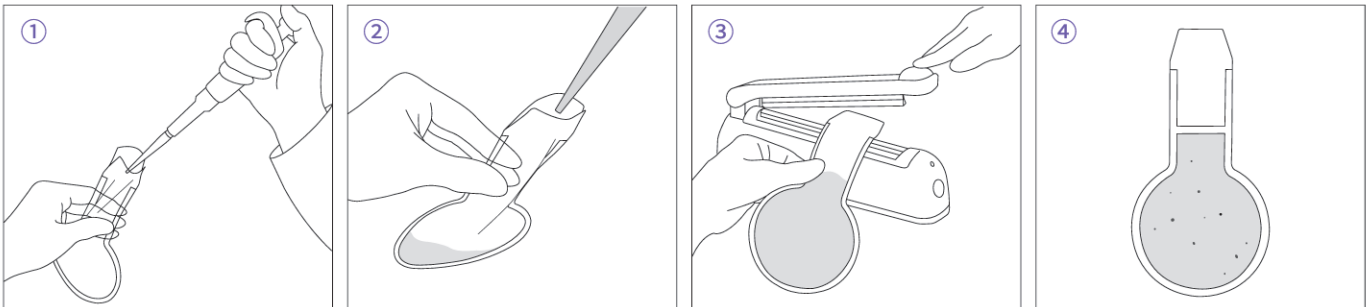
食品衛生法におけるクロストリジウム属菌成分規格

対象製品：特定加熱食肉製品、加工食肉製品（包装後加熱殺菌）
これらの製品はクロストリジウム属菌が検体 1g あたり 1,000 以下であることが求められています。

代表的なクロストリジウム属菌

C.tetani, *C.botulinum*, *C.sporogenes*, *C.perfringens*, *C.difficile*, *C.thermocellum*, *C.butyricum*, *C.acetobutylicum*

●使い方



①検体に希釈液を加えホモジナイズした後、原液または希釈した検液を各2枚のパウチに分注します。(ABP-90の場合は10mL、ABP-180の場合は10mL×最大8検体) ②あらかじめ用意しておいたクロストリジウム属菌用培地を加え(ABP-90の場合は15mL、ABP-180の場合最大120mL)、袋を手で揉みよく混ぜます。③培地中の気泡を除去し、パウチの首部分をシーラー機で密封します。寒天培地が固化したら培養します。④培養後、パウチ内に直径1〜3mmの黒

色コロニーをクロストリジウム属菌とする（培養条件等は、使用する培地の取扱説明書に従ってください）。
注意:原料肉などの非加熱製品には多様な細菌が存在するため、ホモジナイズ後、70℃20分程度加熱処理を行い、生存するクロストリジウム属菌を検査します。(参考文献：小久保 彌太郎;食品衛生検査におけるクロストリジア測定用培地について、メディアサークル Vol.132, No.11:473-478)

●ABP-180の使用法

汚染が少ないと予想される場合には、クロストリジウム属菌の存在確認を目的として、複数検体をまとめて混合検査をする際に ABP-180 を使用します。最大8検体を同時に検査できるため効率的です。自主検査やスクリーニング用途での使用が前提です。

①個別に採取した複数の検体をホモジナイズした後、各検体から 10mL ずつを ABP-180 に分注します。②分注した検体数 ×15mL の量のクロストリジウム属菌用培地を加え、袋を手で揉みよく混ぜます。③培地中の気泡を除去し、パウチの首の部分をシーラー機で密封します。培地が固化したら培養します。④培養後コロニーが発生しない場合は全検体が陰性と判断できます。コロニーが発生した場合は各検体を個別に再検査して陽性の検体を特定します。

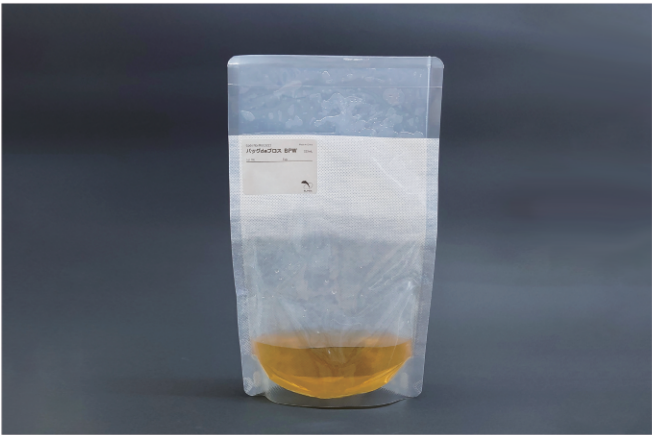
●ラインナップ

製品	コードNo.	入数	サイズ	容量	厚み	材質	滅菌
ABパウチ (S)	ABP-90	500枚 (20枚×25チャック袋)	100×195mm 内径90mm	25mL	58μm	PET、LLDPE	γ線照射
ABパウチ (L)	ABP-180	200枚 (20枚×10チャック袋)	190×260mm 内径180mm	200mL			

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

培地入りフィルタバッグ

バッグ de ブロス

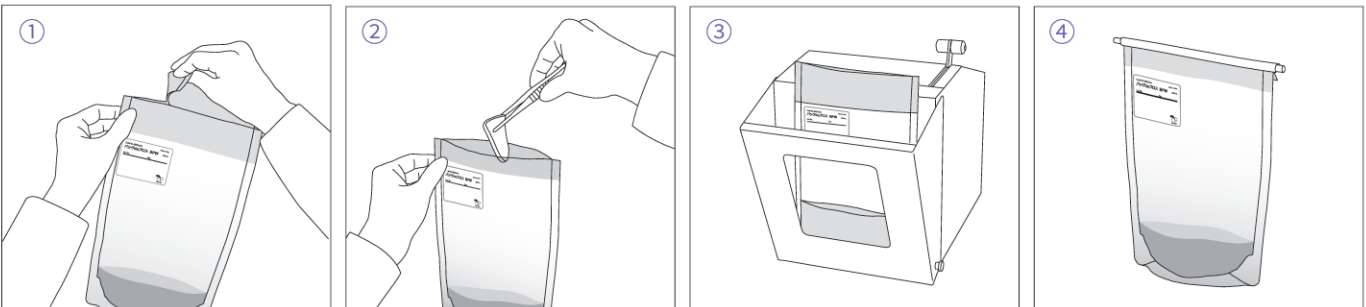


フィルタ付きホモジナイズバッグに希釈液や液体培地が225mL 分注されています。秤量した検体を入れてそのままホモジナイズ処理できます。

●特徴

フィルタバッグに緩衝ペプトン水 225 mL があらかじめ分注されており、検体を入れてそのままホモジナイズできます。前処理の手間を減らし、作業時間を短縮します。自立式バッグなのでスタンドが不要です。緩衝ペプトン水 (BPW) は ISO に準拠した組成です。

●使い方



①ラベルに検体情報を記入します。袋の上部を消毒用エタノールで殺菌後、開口します。上部開口部には切り込みがありますので手でも切ることができます。②25g 秤量した検体を入れます。③ホモジナイザで検体を均一化します。④培内用液を培地として使用する場合には、開口部をクリップで留め培養します。

ます。試料調製に使用する場合は、作成した試料液を必要量培地に接種します。
注意:培養時に毛細管現象による培地の上昇を防止するため、フィルタをクリップ等ではさまないように開口部を留めてください。

●組成

1,000mL あたり

ペプトン	10.0g
塩化ナトリウム	5.0g
りん酸水素二ナトリウム・12水和物	9.0g
りん酸二水素カリウム	1.5g

pH7.0±0.2

●使用上の注意

- ・オートクレーブ滅菌をすると袋が変形することがあります。
- ・開封後は速やかにご使用ください。
- ・保存条件に従って保存してください。

●ラインナップ

製品	コードNo.	入数	概要	材質	保存条件
バッグ de ブロス BPW	MB03225	20袋	緩衝ペプトン水225mL 入り 検体25g 用	袋：PET、ナイロン、PE 複合 フィルタ：ポリエステル	2〜25℃ 遮光・禁凍結

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

段階希釈用滅菌希釈液 Pro-media MT・DS シリーズ

あらかじめ 9 mL の希釈液が分注されているので、検体 1 mL を加えて混ぜるだけですぐに 10 倍希釈液が作れます。調製不要なため前処理の手間を軽減し現場での迅速な作業に適しています。常温で保存が可能。γ 線滅菌済み。



ホームページ

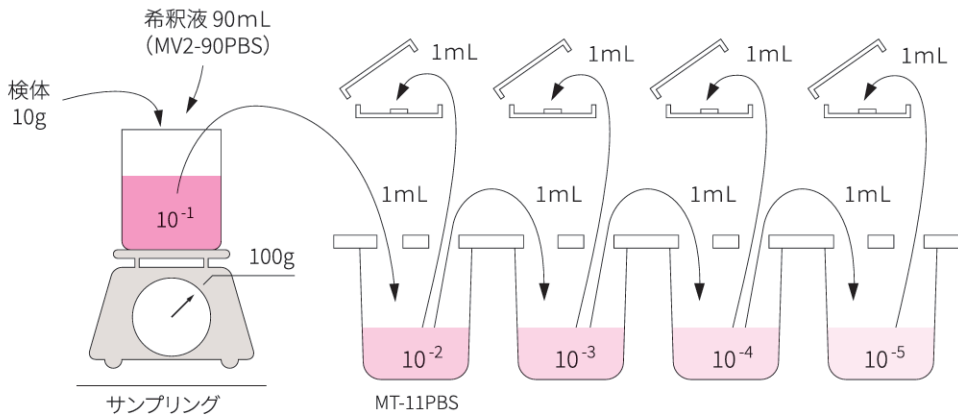


●特徴

MT
カップタイプの容器に 9mL のりん酸緩衝生理食塩水 (PBS) が分注済み。4 カップ連結仕様で、数段階に希釈する際に便利です。カップは手で簡単に切り離せ、必要な分だけ使用可能です。

DS
試験管タイプの容器に 9mL 分注済み。希釈液はりん酸緩衝希釈水 (PB) と、りん酸緩衝生理食塩水 (PBS) の 2 種類です。キャップは片手で開閉可能で自立します。側面とキャップ上部は梨地成型となっており、検体情報が記入できます。

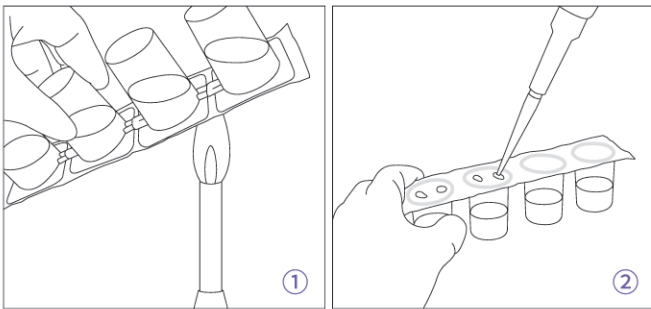
●MT-11PBSを用いた段階希釈



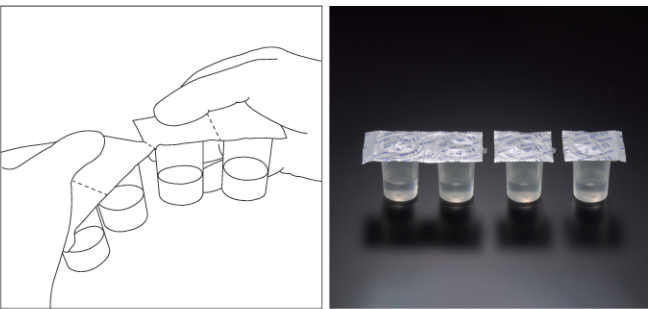
検体 10 g を 90 mL の希釈液 (MV2-90PBS) に加えて均一に混合し、 10^{-1} 希釈液を作製します。次に、この 10^{-1} 希釈液から 1 mL を取り、9 mL の MT-11PBS に加えて混合すると、 10^{-2} 希釈液が得られます。同様の操作を繰り返すことで、 10^{-3} 、 10^{-4} 、 10^{-5} と順次 10 倍ずつ希釈された段階希釈系列を作

製します。このような段階希釈を行うことで、試料中の菌数を適切な測定範囲内に調整することができ、培養や定量試験においてより正確な測定結果を得ることが可能となります。

●MT-11PBSの使い方

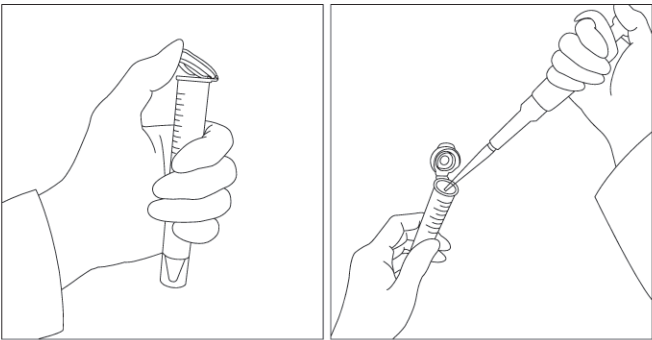


① アルミシールされたカップの上面をアルコールで拭いた後、火炎滅菌を行います。シュリンク開封直後は火炎滅菌を行う必要はありません。② 滅菌済みのピペットなどを用いて、各カップの「検体注入口」と「検体吸引口」の 2 か所を開栓します。検体注入口から検液 1 mL を注入し、攪拌することで 10 倍希釈の検液が得られます。さらに希釈が必要な場合は、検体吸引口から検液を吸引し、別のカップに注入して希釈操作を行ってください。注入口と吸引口を分けることでコンタミネーション (汚染) を防止できます。



アルミシールのミシン目から切り離し可能。切り離して残ったカップの希釈液を次回使用する場合は必ず①のとおり滅菌してからご使用ください。

●DS-9PB、DS-9PBSの使い方



ワンタッチ式のキャップを開け 1 mL の検液を分注し 10 倍に希釈します。希釈した検液を培地などに分注します。キャップは片手で開けることができます。

●ラインナップ

製品	コードNo.	入数	概要	材質	保存条件	滅菌
 段階希釈用滅菌希釈液 MT-11PBS	MT-11PBS	128カップ	りん酸緩衝生理食塩水 9mL入 検体1mL用 カップタイプ	容器：PP、 シール：アルミラミネート	常温	γ線滅菌
 段階希釈用滅菌希釈液 DS-9PBS	DS-9PBS	400本 (50本入箱×8)	りん酸緩衝生理食塩水 9mL入 検体1mL用 試験管タイプ	容器：PP		
 段階希釈用滅菌希釈液 DS-9PB	DS-9PB	400本 (50本入箱×8)	りん酸緩衝希釈水 9mL入 検体1mL用 試験管タイプ			

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

減菌希釈液

Pro-media MVシリーズ

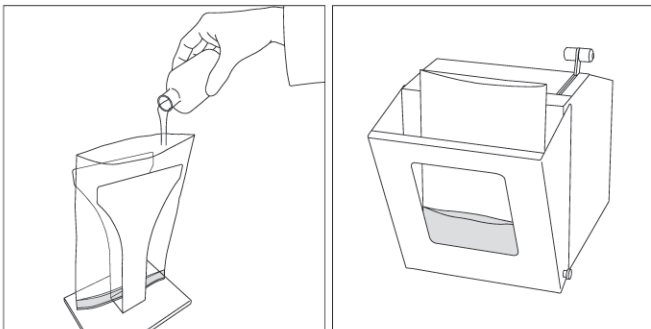
食品微生物検査試料原液作成用、使い切りの調製済み希釈液です。簡単に使い準備や後片付けの手間を省き作業効率の向上に役立ちます。5種の希釈液より用途に合わせてお選びください。常温保存が可能。γ線滅菌済み。



ホームページ



●MV2-90PBS、MV-225シリーズの使い方



① アルミシールを消毒用アルコールで拭き殺菌してから封を開け、あらかじめ秤量した検体（MV2-90PBSは10g、MV-225シリーズは25g）が入ったホモジナイズバッグに全量をいれます。② ホモジナイズ処理をして試料原液を作成します。

●目的別MV-225シリーズの使い方

サルモネラ属菌
① MV-225BPWを約37℃に温めておきます。② 検体25gにMV-225BPWを加え、1分間ホモジナイズします。③ 37℃で22時間±2時間前培養した培養液を選択増菌培養に供します。選択増菌に関しては、培地メーカーの発行する取扱説明書に従ってください。

黄色ブドウ球菌
① 検体25gにMV-225BPWを加え、ホモジナイズし、10倍段階希釈液を作製します。② ①の0.1mLをそれぞれ2枚の選択分離培地に塗抹します。選択増菌に関しては、培地メーカーの発行する取扱説明書に従ってください。

腸炎ビブリオ
① 検体25gにMV-225APを加え、ホモジナイズします。② 24時間培養したものを選択増菌培養に供します。選択増菌に関しては、培地メーカーの発行する取扱説明書に従ってください。



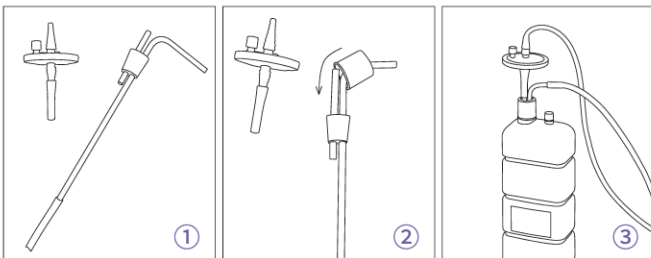
●特徴

- ・ディスポーザブルで衛生的
- ・希釈液の調製が不要、すぐに使えます
- ・常温保存が可能
- ・希釈液は5種類
 - りん酸緩衝希釈水
 - りん酸緩衝生理食塩水
 - 緩衝ペプトン水
 - 0.1%ペプトン加生理食塩水
 - アルカリペプトン水
- ・自動秤量分注装置 DT cube、簡易分注器 AP-001 に接続可能なタイプもあります



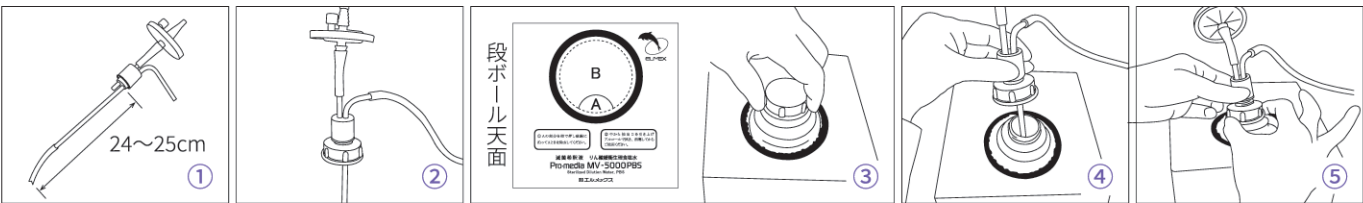
応用例 検体が液体や粉体の場合は、アルミシールを半分ほど開けて検体を直接 MV2-90PBS の容器に入れます。アルミシールを戻して指でしっかり押さえ攪拌したものを試料原液として検査に供します。

●MV2-1000と装置との接続方法



① MV2-1000 送液ユニット (DT cube 付属品) のディスクフィルターをステンレス管から外します。② アダプタ 1000 をノズルの上部から通しシリコン栓の上にセットし滅菌します。③ MV2-1000 のブルーのキャップを外し開栓します。ディスクフィルターを接続した送液ユニットを挿入し、アダプタ 1000 をキャップを締めるように装着します。

●MV-5000と装置との接続方法



① MV2-1000 送液ユニットにアダプタ 1000 を取付け、シリコン栓下のステンレス管とシリコンチューブが 24 ～ 25cm になるよう調整します。② アダプタ 5000 を取付け滅菌します。③ MV-5000 段ボール天面の A, B の部分を切り取り抽出口を引き出します。④ MV-5000 のキャップを外して速やかに送液ユニットを挿入します。⑤ アダプタ 1000 を緩めながらアダプタ 5000 を MV-5000 の抽出口に装着します。続いてアダプタ 1000 を締め直します。

●食品別希釈液の使い分け(食品衛生法・食品衛生検査指針準拠)

食品区分	主な検査対象微生物	推奨希釈液	理由・備考
一般食品 (加工食品・惣菜・弁当など)	一般生菌数、大腸菌群、E.coli	0.85%生理食塩水 または、りん酸緩衝生理食塩水 (PBS)	最も標準的な希釈液。塩分とpH緩衝で菌の生残を保持する
肉製品・食肉 (生肉・食肉加工品)	一般生菌数、大腸菌群 サルモネラ属菌、リステリア属菌	緩衝ペプトン水 (BPW)	ストレスを受けた菌の回復目的で使用される。サルモネラ、リステリアの前増菌用に使用。食品衛生法試験法に明記
魚介類 (刺身、冷凍魚介、加工魚)	一般生菌数、大腸菌群 腸炎ビブリオ	0.85%生理食塩水 または 3%食塩水	海産物由来菌は塩濃度に依存 腸炎ビブリオ検査では3%食塩水を使用
乳・乳製品 (牛乳、ヨーグルト、チーズ)	一般生菌数、大腸菌群、E.coli	0.1%ペプトン水	栄養をわずかに含み、菌の死滅、不活化を防ぐ 乳成分とのpH変動を抑制する
	リステリア属菌	緩衝ペプトン水 (BPW)	リステリア属菌の前増菌用に使用
卵・卵製品	サルモネラ属菌、大腸菌群	緩衝ペプトン水 (BPW)	サルモネラ試験法で規定。前増菌用にも使用される
野菜・果物 (生鮮・カット野菜含む)	一般生菌数、大腸菌群	0.85%生理食塩水	表面付着菌の回収に適し、栄養分を含まない
穀類・粉類 (小麦粉、米、パンなど)	一般生菌数、Bacillus属菌など	0.85%生理食塩水	固形粉末検体にも標準的な希釈液
冷凍食品・加熱調理食品	一般生菌数、大腸菌群、芽胞菌	PBS または 0.1%ペプトン水	再加熱・冷凍でダメージを受けた菌を安定化
水・氷	一般生菌数、大腸菌群、E.coli	滅菌精製水 または 生理食塩水	必要に応じて塩分濃度を調整

●ラインナップ

製品	コードNo.	入数	概要	材質	滅菌	保存条件
 滅菌希釈液 MV2-90PBS	MV2-90PBS	40本	りん酸緩衝生理食塩水90mL 検体10g用	容器：PE シール：アルミラミネート	γ線滅菌	常温
 滅菌希釈液 MV-225PBS	MV-225PBS	40本	りん酸緩衝生理食塩水225mL 検体25g用			
 滅菌希釈液 MV-225BPW	MV-225BPW	40本	緩衝ペプトン水225mL 検体25g用 サルモネラ属菌用			
 滅菌希釈液 MV-225MRD	MV-225MRD	40本	0.1%ペプトン加生理食塩水225mL 検体25g用			
 滅菌希釈液 MV-225AP	MV-225AP	40本	アルカリペプトン水225mL 検体25g用 腸炎ビブリオ用			
 滅菌希釈液 MV2-1000PB	MV2-1000PB	10本	りん酸緩衝希釈水1000mL 装置接続用	容器：PE キャップ：PP シール：アルミラミネート		
 滅菌希釈液 MV2-1000PBS	MV2-1000PBS	10本	りん酸緩衝生理食塩水1000mL 装置接続用			
 滅菌希釈液 MV-5000PB	MV-5000PB	2本	りん酸緩衝希釈水5000mL 装置接続用	容器：PE キャップ：PE		
 滅菌希釈液 MV-5000PBS	MV-5000PBS	2本	りん酸緩衝生理食塩水5000mL 装置接続用			
 滅菌希釈液 MV-5000BPW	MV-5000BPW	2本	緩衝ペプトン水5000mL 装置接続用			
 アダプタ1000	PA051	1個	MV2-1000、MV-5000を装置に接続する際に使用		オートクレーブ滅菌可	—
 アダプタ5000	PA052	1個	MV-5000を装置に接続する際に使用		オートクレーブ滅菌可	—

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

大腸菌群・E.coli 同時検査用 酵素基質培地 ラウリル硫酸X-GAL・MUG培地

Pro-media XMシリーズ

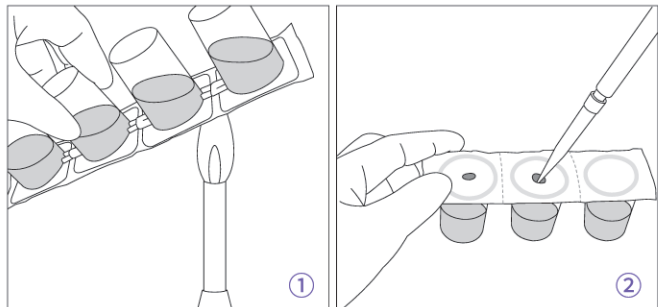


ホームページ



●使い方

XM-30、XM-31、XM-32



① アルミシールされたカップの上面をアルコールで拭いた後、火炎滅菌を行います。シュリンク開封直後は火炎滅菌を行う必要はありません。② 滅菌ピペットでアルミシールに穴を開け開栓し、検体を注入します。検体量は、XM-30: 1mL、XM-31: 10mL、XM-32: 5mL です。③ 36±1℃、24 時間で培養します。

XM プロス

8.5 g を 500mL の精製水に溶解し試験管に分注後オートクレーブ滅菌（121℃ 15 分間）します。滅菌後保管する場合は冷暗所に保存し 1 週間以内にご使用ください。2 倍濃度に調整するときは 17g を 500mL の精製水に溶解し前記同様に処理します。

●組成

XM-30 1,000mL あたり（XM プロスの場合は 17g/1000mL あたり）

トリプトース 5.0g
塩化ナトリウム 5.0g
ソルビトール 1.0g
トリプトファン 1.0g
ラウリル硫酸ナトリウム 0.1g
りん酸水素ナトリウム 2.7g
りん酸二水素ナトリウム 2.0g
X-GAL 0.08g
MUG 0.05g
IPTG 0.1g

pH6.8±0.2

大腸菌群・E.coli 同時に検出するための酵素基質培地です。E.coli 検査の際はブラックライトをご用意ください。食品衛生検査指針微生物編 2004 に収載。

●特徴

大腸菌群と E.coli を同時検査

1 つの培地で両者を同時に検出でき、陽性判定は色調変化と蛍光で確認可能。

検査時間短縮と簡便化

従来法（BGLB+EMB 培地法）に比べ、検査時間は約 1/3（24 時間）に短縮、追加試験や確定試験を行う必要がありません。インキュベーターで培養でき、EC 培地で必要だった恒温水槽は不要です。

容器入り培地（XM-30、XM-31、XM-32）

培地調製が不要で、すぐに使用できます。4 カップ連結仕様で、手で簡単に切り離せ、必要な分だけ使用可能。γ線滅菌済みです。

XM プロスは培地調製後、試験管に分注・滅菌して使用します。

●判定

大腸菌群陽性

大腸菌群の指標となる β-galactosidase は、乳糖分解酵素で、乳糖を発酵する大腸菌群にはこの酵素が存在します。発色酵素基質 X-GAL は、本酵素により加水分解と酸化反応を経て 5,5-dibromo-4,4-dichloro indigo の形成により青〜緑色に発色します。注意：多量の乳酸菌が存在すると偽陽性を示す場合があります。

E.coli 陽性

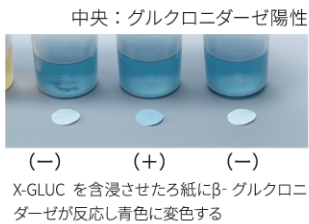
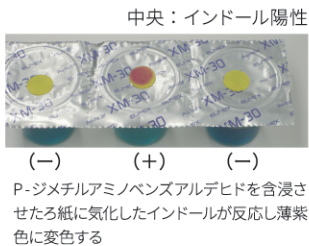
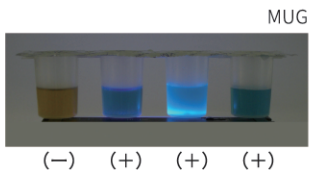
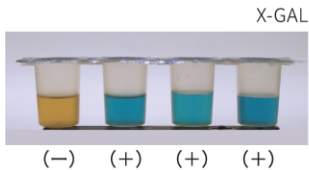
E.coli の指標となる β-glucuronidase は、Salmonella および Shigella をのぞく腸内細菌中 E.coli のみにみられる特異的な酵素で、E.coli の 95% が保持しています。この β-glucuronidase によって蛍光酵素基質 MUG が加水分解されると、4-Methylumbelliferon が遊離し紫外線照射で蛍光を呈します。蛍光は室内光で確認できます。別途ブラックライトをご用意ください。

インドールテスト

Tryptophanase 活性（トリプトファンからインドールを形成する能力）は、E.coli 菌株の 95% に存在します。インドールテストは、稀にみられる β-glucuronidase 陰性の E.coli（5%）を検出するためのテストです。注意：E.coli の他にもインドール産生菌が混在する場合、陽性を呈します。

β-グルクロニダーゼテスト

生の獣肉および生鮮魚介類には本来 β-glucuronidase が含まれているため、は蛍光酵素基質（MUG）による大腸菌検査では E.coli が存在しなくても紫外線照射で蛍光を発し、偽陽性反応を示すことがあります。β-グルクロニダーゼテストはこの偽陽性を確認するためのテストです。



●XMシリーズの感度

酵素基質培地への接種菌数と反応時間

① E.coli (ATCC 25922)		② E.coli (IF 03302)		③ Enterobacter aerogenes (ATCC 213048)	
Bacteria/mL	Reaction time	Bacteria/mL	Reaction time	Bacteria/mL	Reaction time
3,500	7	1,700	8	100,000	8
320	10	190	10	9,500	10
31	12	18	12	940	12
3	14	2	14	95	14
<1	16	<1	16	8	17
10 ⁻¹ in the above	No reaction	10 ⁻¹ in the above	18	1	20
		10 ⁻¹ in the above	No reaction	<1	24
				10 ⁻¹ in the above	No reaction

左欄菌数は標準寒天培地で算出、酵素基質液体培地は Pro-media XM-30 を使用 Presented by Mr. Seiichi Kaneko, Kanagawa Health Laboratory (Kanagawa University of Human Services)

菌数の測定は標準寒天培地を用いた混釈培養法で得たものです。酵素基質培地には XM-30 を使用しています。

すべての菌種において、寒天培地では検出できなかった 1/10 に希釈した試料においても、酵素基質培地では検出が確認されました。この原因として、以下の点が考えられます。

- 寒天中に含まれる不飽和脂肪酸が菌の発育を抑制すること。
 - 混釈時（約 50℃）の加温により、一部の菌が熱によって死滅すること。
- 従って、菌種にもよりますが、酵素基質液体培地は寒天培地に比して 10 倍以上の感度があるものと思われます。この差は、冷凍食品や乾燥食品など、菌がストレスを受けている試料ほど顕著になるといわれています。

●使用上の注意

- XM シリーズは検体中に β-galactosidase、β-glucuronidase があると反応します。一部の食品にはこれらが含まれるため、偽陽性を示す場合があります。（β-glucuronidase は GLU-01 で判定可能）
例 β-galactosidase 含有：タマネギ、キャベツ
β-glucuronidase 含有：生獣肉、生鮮魚介類

大腸菌群中の E.coli の同定率

EC 培地では 44.5℃ で発育する性質を利用して E.coli を選択的に検出しますが、この方法では E.coli の約 80% 検出されます。一方で、E.coli が特異的に保有する酵素である β-glucuronidase を指標とすると約 95% の株が陽性となり、より高い同定率が得られます。

β-Glucuronidase 陽性の腸内細菌

右表は β-glucuronidase 陽性の腸内細菌がどの程度存在するかを示したものです。E.coli の 95% が β-glucuronidase 陽性です。一方、他の腸内細菌での陽性例はごくわずかで、Shigella や Salmonella を除いてほとんど認められず、100 種類に及ぶ腸内細菌の中で β-glucuronidase 陽性は E.coli の指標となります。β-glucuronidase を指標とした XM シリーズを用いることで効率的に E.coli を検出できます。

潜在的乳糖発酵菌について

大腸菌群の指標は β-galactosidase による乳糖分解ですが、乳糖分解には細胞膜透過酵素も必要です。β-galactosidase は持っている「透過酵素」がない菌は、乳糖を外から取り込めないため発酵できず、見かけ上は乳糖を発酵しないように見えるため、潜在的乳糖発酵菌と呼ばれます。典型的な例は、Serratia marcescens（セラチア・マルセッセンス）です。従来法では検出に手間がかかったこのような菌も XM シリーズは検出できます。

- グラム陽性菌が多量に存在すると抑制できず発現し偽陽性を示す場合があります。
例 β-galactosidase：乳酸菌
β-glucuronidase：ブドウ球菌の一部
- O157 は、β-glucuronidase 陰性ですので大腸菌群として検出されません。

●ラインナップ

製品	コードNo.	入数	概要	材質	保存条件
滅菌液体培地 XM-30	XM-30	128カップ	培地10mL入り 検体1mL用 γ線滅菌済	容器：PP、 シール：アルミラミネート	2〜25℃ 遮光・禁凍結
滅菌液体培地 XM-31	XM-31	128カップ	倍濃度培地10mL入り 検体10mL用 γ線滅菌済		
滅菌液体培地 XM-32	XM-32	128カップ	倍濃度培地5mL入り 検体5mL用 γ線滅菌済		
XMプロス 分包タイプ	XM0001	8.5g×20袋	培地作成用	袋：アルミラミネート	15〜25℃以下 開封後は速やかにご使用ください
XMプロス ボトルタイプ	XGMU500	500g	培地作成用	ボトル：HDPE	冷暗所 25℃以下 開封後は速やかにご使用ください
ペーパーディスク インドールテスト用	IND0101	100枚	P-ジメチルアミノベンズアルデヒド含浸	-	冷暗所
ペーパーディスク β-グルクロニダーゼテスト用	GLU0101	100枚	X-GLUC 含浸	-	冷暗所
LEDブラックライト	BL-365N	1個	E.coli 検査用 波長 λ365nm	-	-

仕様および価格が予告なく変更する場合があります

大腸菌群・E.coli 同時検査用

ラウリル硫酸Magenta-GAL・X-GLUC寒天培地

Pro-media アガートリコロール



ホームページ



●使い方

① 1袋 (7.85g) を 200mL の精製水に加え均等浮遊液としたのち、加温溶解するか、またはオートクレーブ滅菌を行う。② 混釈培養の場合は、試料が注入されたシャーレに、50℃以下のトリコロール培地を分注し混釈する。塗抹培養の場合は、分注し固化させたトリコロール培地表面に試料を滴下し均一に塗抹する。③ 35 ～ 37℃で、18 ～ 24 時間培養する。

●組成

培地1,000mLあたり

ペプトン 10.0g
塩化ナトリウム 5.0g
りん酸二水素ナトリウム 2.2g
りん酸水素二ナトリウム 2.7g
ピルビン酸ナトリウム 1.0g
硝酸カリウム 1.0g
L-トリプトファン 1.0g
D-ソルビトール 1.0g
ラウリル硫酸ナトリウム 0.2g
寒天 15g
5-ブロモ-4-クロロ-3-インドリル-β-D-グルクロニド 0.10g
5-ブロモ-6-クロロ-3-インドリル-β-D-ガラクトピラノシド 0.10g

pH7.2±0.2

●使用上の注意

- ・本培地は吸湿性がありますので、開封ごとに固く密栓してください。
- ・加温溶解した培地は調製当日のみにご使用ください。
- ・加温溶解で調製した方が発色がより鮮明です。
- ・再加熱を重ねると酵素基質が劣化し発色が悪くなる場合があります。
- ・本製品は、食品・飲料・水質等の大腸菌群・E.coli 査用の培地です。他の目的には使用しないでください。
- ・大腸菌 O-157 は、β-グルクロニダーゼ非産生のため本培地では、大腸菌群として検出されます。
- ・乳酸菌などの β-ガラクトシダーゼ産生菌が多数存在する場合は偽陽性を示す場合があります。
- ・ブドウ球菌の一部には β-グルクロニダーゼ陽性菌があり多数存在する場合は偽陽性を示す場合があります。
- ・冷凍または栄養素の少ない検体等のように菌が非常にストレスを受けている場合 24 時間で発現しない場合があります。その場合にはさらに 24 時間培養してください。
- ・確認できない大腸菌、大腸菌群が一部あります。

デソに代わる、待望の次世代培地です。食品・製造環境・水質などの検査で大腸菌群と E.coli を 1 つの培地で同時に判定できる寒天培地です。菌が持つ特異酵素の反応によってコロニーが発色するため、目視で迅速に判定できます。食品衛生検査指針 微生物編 2004 年に収載。

●特徴

大腸菌群と E.coli を同時に検査

透明の培地に E.coli は青く、大腸菌群は赤く発色するので判定しやすい。客観性が高く、作業者の熟練度に左右されにくい。

水質検査

水質汚濁防止法に基づく排水検査において、関連通知（環水大管発第 2403149 号、令和 6 年 3 月 15 日）に示される特定酵素基質培地法による大腸菌数試験に使用できます。

●判定

E.coli 陽性

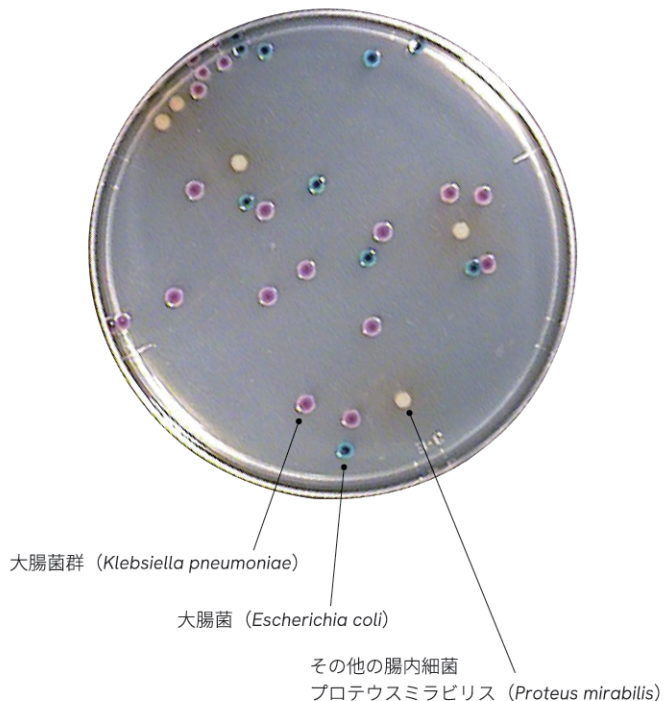
β-グルクロニダーゼは、Salmonella および Shigella を除いた腸内細菌のうち、E.coli のみにみられる特異的な酵素で、E.coli の 95% が保持しています。この β-グルクロニダーゼにより発色酵素基質 X-GLUC が加水分解され青～青紫に発色します。L-トリプトファンを含有するためインドールテストが可能です。

大腸菌群陽性

大腸菌群が産生する β-ガラクトシダーゼ（乳糖分解酵素）によって発色酵素基質 Magenta-GAL が加水分解されて集落が赤～紫に発色します。

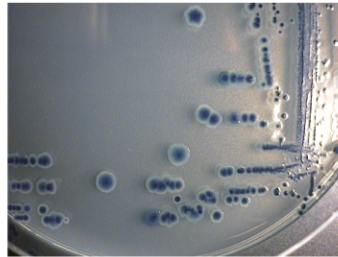
その他の腸内細菌

大腸菌群以外のグラム陰性の腸内細菌は白いコロニーを形成します。当培地はグラム陽性菌阻害物質としてラウリル硫酸ナトリウムを使用しています。すべての菌が育成されるものではありません。



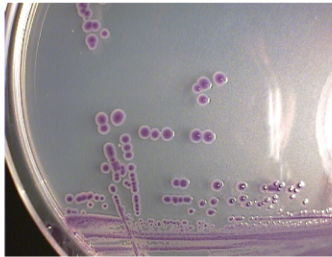
●発色事例

E.coli は青

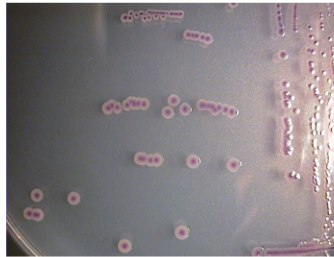


Escherichia coli (ATCC 25922)

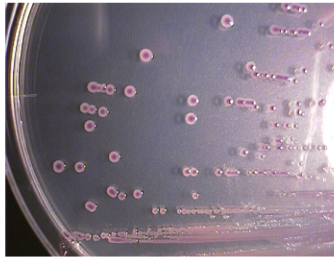
大腸菌群は赤



Enterobacter cloacae (NBRC 13536)

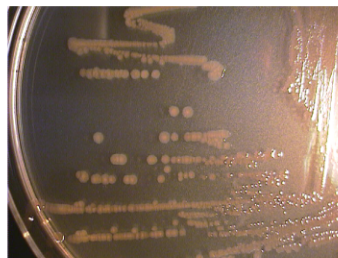


Citrobacter freundii (NBRC 13546)

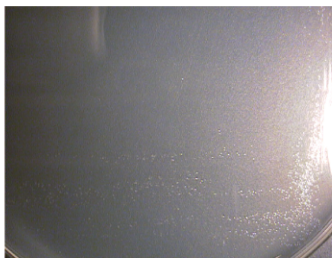


Klebsiella oxytoca

その他の腸内細菌は白

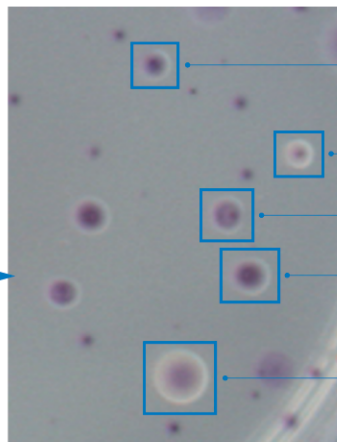
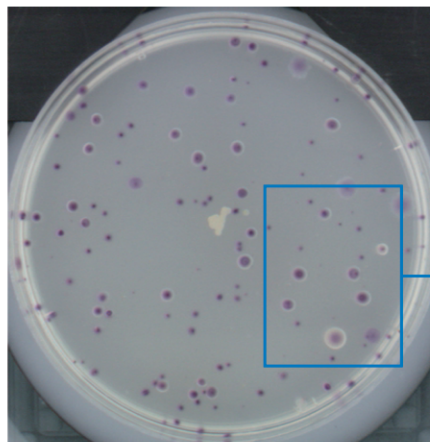


Proteus mirabilis (JCM 1669)



Proteus hauseri (ATCC 13315)

アクチュアルサンプル(キャベツ)による混釈発色例



●発育性能

菌株 数値はトリプトソイブイオンで24時間培養した後に各培地で測定した菌数

菌種	トリコロール	デオキシコレート	標準寒天
Escherichia coli (ATCC 11775)	8.5×10 ⁸ 青色集落	5.7×10 ⁷ 赤色集落	1.5×10 ⁹ 乳白色集落
Citrobacter freundii (ATCC 8090)	6.5×10 ⁷ 赤色集落	2.2×10 ⁷ 赤色集落	1.7×10 ⁷ 乳白色集落
Klebsiella pneumoniae (ATCC 13883)	3.9×10 ⁸ 赤色集落	2.0×10 ⁸ 赤色集落	2.9×10 ⁸ 乳白色集落
Serratia marcescens (ATCC 8100)	1.1×10 ⁸ 淡赤色集落	2.5×10 ⁷ 赤色集落	3.0×10 ⁸ 乳白色集落

食品

菌種	トリコロール	デオキシコレート
鶏ミンチ肉	大腸菌群 1.1×10 ¹⁰ 赤紫色集落 E.coli 2.0×10 ¹⁰ 青色集落	7.0×10 ¹⁰ 赤色集落
豚・牛ミンチ肉 (合挽)	大腸菌群 2.8×10 ² 赤紫色集落 E.coli 1.0×10 ¹⁰ 青色集落	1.8×10 ² 赤色集落
ほうれん草 (生)	大腸菌群 1.7×10 ² 赤紫色集落	1.1×10 ² 赤色集落
カット野菜 (もやし、キャベツ、ピーマン、にんじん)	大腸菌群 3.1×10 ⁶ 赤紫色集落	1.7×10 ⁶ 赤色集落

●ラインナップ

製品	コードNo.	入数	概要	材質	保存条件
アガートリコロール 分包装タイプ	XMA-01N	7.85g×40袋	200mL溶解分アルミバック入り 顆粒	袋：アルミラミネート	冷暗所 25℃以下
アガートリコロール ボトル入り	XMA-400	400g	顆粒	ボトル：HDPE	

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

自動秤量分注装置

Pro-media DT cube



●仕様

コードNo.: DT-3
試料重量: 0.5 ~ 1,000g / 希釈倍率
分注量: 5 ~ 1,000mL
注入精度: ±0.8g
注入速度: 7sec (90mL注入時)
希釈倍率: 2 ~ 999倍
天秤秤量: 0.1 ~ 1,500g
比重設定: 0.7 ~ 1.4
電源: AC100V 50/60Hz 30W
重量: 7.5kg
寸法: W320×D280×H270mm (本体のみ)
付属品: DT cubeスタンド×1、デルタック12枚入×1、分注ノズル×1、
電子天秤×1、天秤用電源コード×1、天秤通信ケーブル×1
シリコンチューブdφ3.2mm×1、シリコンチューブdφ4.8mm×1、
MV2-1000用送液ユニット×1、MV2-1000結束用マジックテープ×1、
結線用スパイラルチューブ×1、六角レンチ×1、ACコード×1
[Dual機能付きの場合の追加付属品]
分注ノズル×1、シリコンチューブdφ3.2mm×1、
シリコンチューブdφ4.8mm×1、Y字管付シリコンチューブ×1

●接続できる希釈液



MV2-1000用送液ユニットを使用してDT cubeに接続できるディス
ポーザブルの希釈液をご用意して
います。接続にはオプションパ
ーツのアダプタ1000、アダプタ5000
が必要です。

- ・りん酸緩衝希釈水 PB
- ・りん酸緩衝生理食塩水 PBS
- ・緩衝ペプトン水 BPW

検体に対し自動で指定希釈倍率の希釈液を分注できる試料原
液作成用の装置です。検体量にかかわらず任意の量を分注で
きる定量分注にも対応。秤量・分注作業を簡略化できます。



使用例



ホームページ

●特徴

コンパクト設計
立方体の小型サイズで軽量。分注ノズルは左右どちらにも設置でき、クリー
ンベンチ内にも設置可能です。

空気圧送方式を採用
分注速度が2割アップ (当社比)。分注時の音が静かで、分注後はピタリと静
止し、液だれもありません。

2種類の分注モード
自動希釈: 検体に対し自動的に10倍の希釈液が分注されるので検体重量を気
にすることなく秤量・分注作業が行えます。
定量分注: 検体重量にかかわらず任意の希釈液が分注されます。
希釈液はディスポーザブルも自家調製も使用可能
フットスイッチ (オプション) で操作が簡単
データ出力が可能 (オプション)

●Dual機能 (オプション)

接続した2つの希釈液から同時分注、または交互分注を行える機能です。同
種類の希釈液を2つ接続した場合は高速分注が可能になります。また、異なる
2種類の液を接続した場合は、液の付け替え作業が不要となり、用途に応じて
切り替えながら分注できるため、作業効率が大幅に向上します。



●自家調製希釈液の使用



滅菌ボトル SB4000C
自家調製希釈液用
の専用のボトルを
使用してDT cubeに
接続し分注可能で
す。オートクレー
プ滅菌対応。



GL45用送液ユニット
ねじ口サイズGL45
(ISO規格) のボ
トルやメディウム
瓶に装着しDT cube
に接続できます。
オートクレープ滅
菌対応。

オートクレープ滅菌の遅れ時間について
高压蒸気滅菌器 (オートクレープ) で滅菌する場合、滅菌容器の材質や滅菌する液
量により「遅れ時間」が生じます。ご使用の装置によって遅れ時間は異なりますので
必ずオートクレープの取扱説明書等でご確認ください。「遅れ時間」とは、缶体が滅
菌温度に達してからボトル中心部が滅菌温度に達するまでの時間です。

▶SB4000C の遅れ時間を含めた滅菌時間の設定例 (社内データ)
弊社使用装置 (型式:SV-2402/ 缶体容量 23 リットル) を使用した場合の遅れ時
間は約 1 時間であるため、滅菌時間設定は “121℃、1 時間 20 分” となります。

▶市販のボトルをご利用の場合はご使用のオートクレープの取扱説明書等でご確
認ください。

●オプション・部品・消耗品 ラインナップ

製品	コードNo.	入数	概要
データ出力用プリンタ	PA063	1 式	サーマルプリンタ (BL2-58) RS232Cケーブル、ACアダプタ、感熱紙1巻
プリンタ用ロール紙 (BL2-58用)	PA064	1 巻	サーマルプリンタ (BL2-58) 用感熱紙 サイズ: W58mm×30m
	PA065	10 巻	
プリンタ用ロール紙 (PRINTY2X用)	PA028	1 巻	プリンタ PRINTY2X用感熱紙 サイズ: W80mm×15m
	PA029	10 巻	
フットスイッチ	PA037	1 式	
電子天秤	EX1500	1 台	天秤本体×1、ACアダプター×1
DT cubeスタンド	PA039	1 台	ホモジナイズバッグ400mL用 ステンレス製 サイズ: W80mm×15m
ノズルDT	PA008	1 本	DT cube用分注ノズル ステンレス製 ノズル高: 310mm
デルタック	PA013	60 枚 (12枚×5シート)	サンプリングバッグ固定用粘着タック
シリコンチューブ3.2	PA046	10m	ディスクフィルターとエアポンプ接続用 dφ3.2mm Dφ6.4mm
アダプタ1000	PA051	1 個	送液ユニットと滅菌希釈液MV2-1000、MV-5000シリーズ接続用
アダプタ5000	PA052	1 個	送液ユニットと滅菌希釈液MV-5000シリーズとの接続用 PA060、PA051と組み合わせて使用
MV2-1000用送液ユニット	PA060	1 式	滅菌希釈液MV2-1000、MV-5000シリーズとDT cube接続用 シリコン栓×1、接続シリコンチューブ (5mm) ×1、ディスクフィルター×1、 L型ステンレスパイプ (250mm) ×1、直管ステンレスパイプ (80mm) ×1
シリコンチューブ4.8	PA024	10m	送液ユニットとノズル接続用 dφ4.8mm Dφ8.0mm
接続シリコンチューブ	PA027	1m	ディスクフィルターとコネクタキット接続用 dφ5.0mm Dφ9.0mm
滅菌ボトルセット	SB4000C	1 式	自家調製希釈液分注用ボトル オートクレープ滅菌対応 容量: 4000mL
GL45用送液ユニット	SB0013	1 式	自家調製希釈液分注用 ねじ口サイズGL45用 オートクレープ滅菌対応 シリコンチューブ4.8 (450mm) ×1、接続シリコンチューブ (50mm) ×1、 ディスクフィルター×1、スクリーキャップ×1、コネクタキット×2
ディスクフィルター	SB0001	1 個	
コネクタキット	SB0010	2 個	

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

●接続できる希釈液ラインナップ

製品	コードNo.	入数	概要	材質	滅菌	保存条件
 滅菌希釈液 MV2-1000PB	MV2-1000PB	10本	りん酸緩衝希釈水1000mL 装置接続用	容器:PE キャップ:PP シール:アルミラミネート	γ線滅菌	常温
 滅菌希釈液 MV2-1000PBS	MV2-1000PBS	10本	りん酸緩衝生理食塩水1000mL 装置接続用			
 滅菌希釈液 MV-5000PB	MV-5000PB	2本	りん酸緩衝希釈水5000mL 装置接続用	容器:PE キャップ:PE		
 滅菌希釈液 MV-5000PBS	MV-5000PBS	2本	りん酸緩衝生理食塩水5000mL 装置接続用			
 滅菌希釈液 MV-5000BPW	MV-5000BPW	2本	緩衝ペプトン水5000mL 装置接続用			

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

ホモジナイザ

Pro-media SH-II M



●仕様

コードNo.: SH-2M
電 源 : AC100V、50/60Hz
消費電力: 100W
タイマー: 15、30、60sec、manu (10分連続)
重 量 : 17.0kg
寸 法 : W255×D345×H345mm

●ホモジナイズ用バッグ



ホモジナイズバッグ、フィルタバッグはPYXONをご使用ください。80mL用のミニサイズバッグも使用できます。20枚ずつのチャック袋入り。滅菌済み。(詳細はP08を参照ください)

検体と希釈液が入ったホモジナイズバッグをセットして内容を短時間で均一化できる装置。破碎力が強く短時間で前処理ができ効率的です。



使用例



ホームページ

●特徴

強力な破碎力

硬質ゴムのブレードが装着したパドルで破碎。従来の平パドルでは困難だった魚肉練製品やレタス、スライスハムなどの検体も無理なく破碎します。

ホモジナイズ時間が半分に

破碎力が強力なため従来品の半分の時間でホモジナイズでき、迅速化に貢献します。

取り外し可能な窓付ドア

ステンレス製のドアは丸洗いできるサニタリー設計。ドアに取り付けられた窓から検体の破碎状況が確認できます。

安心の日本製

●破碎力比較



検体: ちくわ
ホモジナイズ時間: 60秒

●部品・消耗品ラインナップ

製品	コードNo.	入数	概要
 SH-II M用ストッパーピン	SH0012	2個	アーム固定用R形状ピン 交換用 ドアと本体をつなぐアームを固定するためのピン
 SH-II M用ドアアクリル	SH0014	1枚	ドアアクリル板交換用
 SH-II M用クッションゴム板	SH0016	1枚	ホモジナイズバッグ固定用ゴム板交換用
 SH-II M用ドア固定ネジ	SH0018	1式	ドア固定用ネジセット交換用 ネジ×1、カラー×1、ワッシャー×1、樹脂ブッシュ×1

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

簡易分注器

Pro-media AP-001



●仕様

コードNo.: AP0104
分注精度: ±0.2mL
モーター: 回転数連続可変式
タイマー: デジタル式
スイッチ: 本体スイッチまたはフットスイッチ
電 源 : AC100V、1.0A、50/60Hz
消費電力: 100W
重 量 : 8.4kg
寸 法 : W255×D205×H130mm (本体)
付 属 品 : ペリスタルティックポンプヘッド×2、試験管分注輸液セット×1、
シャーレ分注用輸液セット×2、フットスイッチ×1、
インターバルタイマー内臓

●部品・消耗品ラインナップ

製品	コードNo.	入数	概要
 端末管	PA020	1個	希釈液や培地の分注をメディアム瓶等を用いて行う場合に使用
 ペリスタポンプ (314X)	PA025	1台	AP-001本体接続用 (X型)
 ペリスタポンプ (314D)	PA026	1台	X型ポンプ (PA0025) の連結用 (D型) マウンティングプレート付
 試験管分注用輸液セット	PA040	1式	グリップ部を除きオートクレーブ滅菌対応 ノズル×2、チューブコネクタ×1、グリップ部×1、シリコンチューブ4.8 (2m) ×2、 シリコンチューブ4.8 (0.3m) ×1、端末管×1
 シャーレ分注用輸液セット	PA041	1式	オートクレーブ滅菌対応 ノズル×1、シリコンチューブ6.5 (2m) ×1、端末管×1
 ノズル	PA042	1本	試験管分注用 (短)
 ノズル	PA043	1本	試験管分注用 (長)
 ノズル	PA044	1本	シャーレ分注用
 シリコンチューブ4.8	PA024	10m	試験管分注用 dφ4.8mm Dφ8.0mm
 シリコンチューブ6.5	PA045	10m	寒天培地分注用 dφ6.5mm Dφ9.9mm

仕様および価格は予告なく変更する場合があります

培地や希釈液などの液体を試験管やシャーレに分注するための装置です。



シャーレ分注使用例



試験管分注使用例



ホームページ

●特徴

試験管分注

2本のノズルが付いた輸液セットを使用し片手で効率的に分注します。
1リットルの液体を100本の試験管に2分以内で分注可能。
(当社実績値: 分注量10mL、精度±0.2mL、モータスピード232rpm)

シャーレ分注

ノズルを本体のノズルホルダーにセットしフットスイッチを押すだけで分注が可能です。培地は恒温水槽で温めながら分注するとスムーズに分注できます。

フットスイッチ

足でスイッチを押すだけで分注できるので、両手が使えて効率的です。

インターバルタイマー

作業ペースに合わせて0.2〜5秒の間で分注間隔を任意に設定できます。

輸液セットはオートクレーブ滅菌対応

試験管分注用輸液セットはグリップ部を外して滅菌してください。

●設定時間と分注量

輸液セットの種類による分注量の違い

試験管分注用輸液セットおよびシャーレ分注用輸液セットを使用した場合の分注量を、設定時間ごとに測定した結果です。同じ設定時間でも使用する輸液セットの種類によって分注量に差があります。

設定時間 (秒)		0.2	0.4	0.6	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.8	2.0
分注量 (mL)	試験管分注用輸液セット	1.3	2.5	3.7	4.8	6.0	7.2	8.4	9.6	10.7	11.9
	シャーレ分注用輸液セット	1.8	3.2	4.7	6.0	7.4	8.9	10.3	11.7	13.2	14.6

測定条件

- 試験管分注用輸液セット: シリコンチューブdφ4.8 Dφ8.0mm
- シャーレ分注用輸液セット: シリコンチューブdφ6.5 Dφ9.9mm
- モーター回転数230rpm
- 5回計測した平均値

コロニーカウンティングシステム

Smart iSac スマートアイザック

コロニーカウント作業の迅速化をめざした独自のシステム。カウント値や画像はデータベース化して管理し、報告書の自動作成機能も可能。カウントシステム・ノートパソコン・専用スキャナ・QRコードリーダー（マルチカウントのみ）がセットになったパッケージ商品です。フィルム培地専用。



ホームページ

●特徴

迅速なコロニーカウント

スキャナで読み取り同種類の培地 6 枚を同時にカウント。処理能力は目視の約 6 倍の速さです（当社比）。カウント後は画像の拡大縮小や自動カウントの感度変更など細かい修正も可能です。

データベースによる管理

検査データの記録や読み取った培地の画像、カウント値などはデータベース化され、過去のデータの再検証・比較が容易にできます。データは CSV ファイルに出力して Excel などでも活用できます。

規模にあったデータ共有

パソコン 1 台でのユーザーレベルによる管理や、クラウドストレージを用いた各拠点間でのデータ共有など、規模にあわせたデータ共有と管理ができます（マルチカウントのみ対応）。

食品安全マネジメントシステムをサポート

●2種類のパッケージ

Smart iSac シンプルカウント

同種類の培地 6 枚の同時カウントと、カウント値の修正等ができる機能のみ。現在の作業に簡単に導入できます。

Smart iSac マルチカウント

QRコードリーダーを用いた帳票作成ができ、報告書は自動で作成。データ管理・蓄積が容易に行えます。食品安全マネジメントシステム向けの全機能が使用できます。



●仕様

Smart iSac シンプルカウント

コード No. : C001-5S
カウントシステム: Simple Count
付属品: ノートパソコン、専用スキャナ

Smart iSac マルチカウント

コード No. : C001-5M
カウントシステム: Simple Count、OCR method、Barcode method
付属品: ノートパソコン、専用スキャナ、QRコードリーダー

●対応培地

微生物検査用フィルム培地 Easy Plate（キッコーマンバイオケミファ社製）

- 一般生菌数測定用 Easy Plate AC
- 大腸菌群数測定用 Easy Plate CC
- 大腸菌・大腸菌群数測定用 Easy Plate EC
- 黄色ブドウ球菌数測定用 Easy Plate SA

ペトリフィルム培地

- 生菌数測定用 ACプレート
- 生菌数迅速測定用 RACプレート
- 大腸菌群数測定用 CCプレート
- E.coli および大腸菌群測定用 ECプレート
- 黄色ブドウ球菌測定用 STXプレート
- 水中一般生菌数（従属栄養細菌）測定用 AQHCプレート

Easy Plateはエルメックスで販売しています。

●3種のカウントシステム

使用するカウントシステムにより利用可能な機能が異なります。

	カウントシステム		
	Simple count	OCR method	Barcode method
6枚同時カウント	○	○	○
カウント値修正	○	○	○
データ保存	○※	○	○
原票作成	×	×	○
自動帳票	×	○	○
菌数換算	×	○	○
合否判定	×	○	×
CSVファイル出力	○	○	○

※画像データとして保存可能

●Simple Count シンプルカウント

同種類 6 枚の培地をカウントし、結果を表示します。培地ごとにカウント結果の詳細を確認でき、感度調整や修正が可能です。帳票作成等の機能は使用できません。



●OCR method オーシーアルメソッド

事前に検査原票を作成することなく、培地に記載された 8 桁のコードをカウント時に自動認識し、報告書を自動作成します。QRコードを使用することも可能で、その場合は 8 桁のコードを QRコード化し印刷したラベルを貼付することで対応します。コロニー数や画像データなどの検査情報は自動で記録され、あらかじめ設定した基準値に基づき合否判定も自動で行います。データは CSV ファイル形式で出力できます。



培地への記入例〈製品ID方式の場合〉

- 1 桁目・・・曜日ID（1：月曜日 2：火曜日・・・ 7：日曜日）
2～4 桁目・・・製品ID（000～999）
5 桁目・・・検体種別（保存検査 1：生産ロット初期
2：中期 3：後期 など 変更可能）
6 桁目・・・培地種別（1：ACプレート 2：CCプレート など）
7 桁目・・・希釈率（1：10倍希釈 2：100倍希釈など）
8 桁目・・・n数（1：同希釈 1枚 2：同希釈2枚分注 など）

※事前にマスター登録が必要です

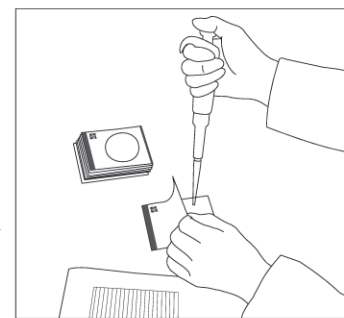
●Barcode method バーコードメソッド

事前に画面上の操作でワークシート（検査原票）を作成し、その内容に従って分注作業を実施します。培養後の培地をスキャンするだけで検査結果表にカウント結果などが自動入力され、報告書を簡単に作成できます。希釈系列と複数枚の培地についても適正なカウント値を自動で判定し CFU/g に換算し

て表示します。微生物検査用フィルム培地「Easy Plate」を使用する場合は培地に印字された QRコードをそのまま利用可能です。その他の培地は IDシールを作成して対応します。結果は CSV ファイル形式で出力できます。

ワークシート

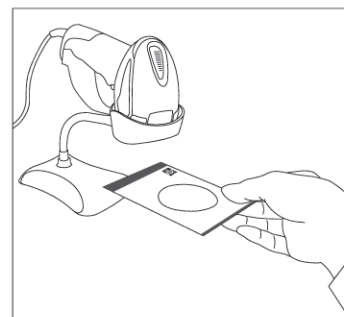
No.	ID	品名	検査項目	培地	希釈	コード
1	010	レタス・サラダ用	pf.CC	1/10 ¹	0174307D	
2	010	レタス・サラダ用	pf.CC	1/10 ¹	0174307E	
3	010	レタス・サラダ用	pf.AC	1/10 ²	0174308C	
4	010	レタス・サラダ用	pf.AC	1/10 ²	0174308D	
5	010	レタス・サラダ用	pf.AC	1/10 ³	0174308E	
6	010	レタス・サラダ用	pf.AC	1/10 ³	0174308F	
7	010	レタス・サラダ用	pf.AC	1/10 ⁴	01743090	
8	010	レタス・サラダ用	pf.AC	1/10 ⁴	01743091	
9	103	大腸・つま用	pf.CC	1/10 ¹	0174307F	
10	103	大腸・つま用	pf.CC	1/10 ¹	01743080	
11	103	大腸・つま用	pf.AC	1/10 ²		
12	103	大腸・つま用	pf.AC	1/10 ²		
13	103	大腸・つま用	pf.AC	1/10 ³		
14	103	大腸・つま用	pf.AC	1/10 ³		
15	103	大腸・つま用	pf.AC	1/10 ⁴		
16	103	大腸・つま用	pf.AC	1/10 ⁴		



ワークシートに従い分注

検査日時	2016/01/15 13:00	サイト名	食生特産地					
作業員	Administrator	品名						
No	検体のID	製品名	検査項目	一般生菌			大腸菌群 (CC)	
				10 ⁻²	10 ⁻³	10 ⁻⁴	CFU/g	10 ⁻¹
1	010	レタス・サラダ用						—
2	010	レタス・サラダ用					†	—
3	103	大根・つま用						—
4	103	大根・つま用					†	†
5	205	人参・味噌						—
6	205	人参・味噌					†	†

培地特定後のセルは薄緑色になる



QRコードを読み取り培地を特定

フィールドノート(検査結果表)

検査日時	2016/01/15 13:00	サイト名	品名 <th>検査項目</th>	検査項目									
作業員	Administrator												
No.	製品ID	製品名	検体	一般生菌 (AC)	大腸菌群 (CC)	黄毛ブドウ球菌 (SA)							
1	010	レタス	検体	238	25	6	2.3E3	25	6	1.9E2	6	6	—
2	010	レタス	検体	265	26	3	7	14	6	7	6	6	7
3	103	トマト	検体	368	25	1	1.9E3	12	2	1.0E2	6	6	—
4	103	トマト	検体	123	16	2	7	19	1	7	6	6	7
5	103	コーン	検体	288	28	6	3.9E3	45	6	4.9E2	6	6	—
6	103	コーン	検体	288	28	2	7	66	2	7	6	6	7
7	205	味噌汁	検体	1805	36	16	7.9E3	11	6	5.7E2	6	6	—
8	205	味噌汁	検体	1805	36	6	7	92	6	7	6	6	7

同種類の培地を最大 6 枚まで同時にカウントでき、セット順序が異なっても所定の位置に結果が自動で入力されます。平均値の計算も自動で処理され、効率的なデータ管理が可能です。また、検査結果の数値をクリックすることで、対応する計測画像をポップアップ表示できます。

新採便管

Pro-media FC-20



ホームページ



仕様

コード No.: FC-20
容器材質: ポリプロピレン
容器サイズ: φ10mm L80mm
培地: 変法キャリブレア培地 1mL
入数: 300本 (30本入×10箱)
保存条件: 室温
使用期限: 製造後1年
その他: 被験者用名前ラベル付き

組成

培地 1,000mLあたり

チオグリコール酸ナトリウム..... 1.5g
りん酸一水素二ナトリウム..... 1.1g
塩化ナトリウム..... 10.0g
塩化カルシウム..... 0.09g
寒天..... 3.0g
pH表示薬..... 0.012g

pH7.6±0.4

腸内細菌などの検査を行うため便を採取し、保存・輸送するための採便容器です。輸送に適した培地が入っています。

特徴

キャップの脱着が簡単

キャップを開けたり閉じたりする際に滑らないように細かい溝が施されているので片手で簡単に脱着が可能です。

転がり防止対策

容器が転がらないように容器中央部分が六角になっています。

先端ティアドロップ形状のアプリケーター採用

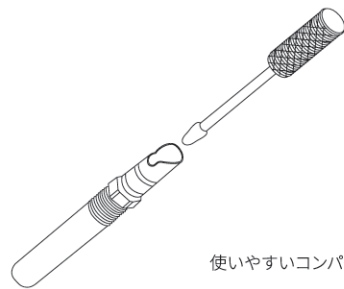
排便後の検体（便）に差し込んでから引き上げると簡単に採取できます。

ボトル開口部は余剰便除去フォルム

検査時に余剰便を拭い取るU字形状になっています。

直径1cm 全長8cm

小さな容器なので場所をとらず輸送にもかさばりません。



使いやすいコンパクト設計

輸送に適した保存培地

検体保存に最適な変法キャリブレア培地を使用しています。pH指示薬により採便前と採便後が明確に分かります。

ウイルス輸送培地

Viral Transport Medium



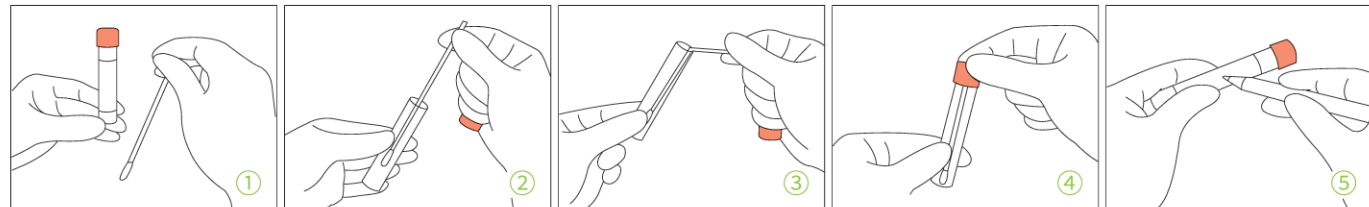
ホームページ



仕様

コード No.: HBPT8661-17
容量: 3mL
寸法: キャッピング時全長102mm
ボトル内径φ15mm 深さ100mm
キャップφ20mm 高さ16mm
入数: 100本
保存条件: 5～25℃

使い方



綿棒で検体を採取する

採取後の綿棒をボトルに入れる

綿棒を折り容器中に投入する

キャップを閉める

検体 ID、採取場所、日時などの情報を記入

人体から綿棒などによって採取された、ウイルス（SARS-Cov-2など）やマイコプラズマなどを検査を行う検査室へ輸送するための保存液入り輸送容器です。

組成

蒸留水1,000mLあたり

Hank's 平衡塩溶液..... 20g
フェノールレッド..... 0.02g
牛血清アルブミン..... 6g
ゲンタマイシン..... 1000 IU
ナイスタチン..... 1000 IU
ポリミキシンB..... 1000 IU
ゼラチン..... 3g
pH7.2～7.4

製造元: 青島高科技工业园海博生物技术有限公司
(Qingdao Hope Bio-Technology Co.,Ltd)

使用上の注意

- 検体採取後は、2～8℃で保管の上2日以内に検査してください。48時間以内に検査できない場合は-70℃以下で保管し、1週間以内に検査してください。凍結と解凍の繰り返しはさけてください。
- 本製品は臨床的に採取されたウイルス等の検体の輸送、保管のみを目的としており、本来の用途以外には使用できません。
- 本品は、毒劇物、医薬品、体外診断薬のいずれにも該当しません。
- キャップの色が写真と異なる場合があります。

検体採取綿棒

一般医療機器 医療用捲綿子

メディクスワブ植毛綿棒

NA02 PP 鼻咽頭用 BP100

ウイルスなどの検査時に使用する、主に鼻腔（鼻咽頭）拭い液採取用の綿棒です。採取部はナイロンファイバー植毛タイプ。軸は挿入部は細く、適度に曲がる設計で被験者の身体的負担を軽減します。採取後に軸を折り切ることができるブレイクポイント付き。個包装、滅菌済、日本製。

ラインナップ

製品	コードNo.	入数	概要	素材	滅菌	医療用機器届出番号
 メディクスワブ植毛綿棒 NA02 PP 鼻咽頭用 BP100	HM7711	1000本	全長:151mm 綿体長:17mm 綿体径:3mm ブレイクポイントまでの長さ:98.5mm	ナイロン	EOG	21B2X10012000063

仕様および価格は予告なく変更する場合があります



株式会社 **エルメックス**

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町2-2

TEL: 03-5229-7911 FAX: 03-5261-4130

E-mail: sales@elmex.co.jp <https://www.elmex.co.jp>